

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 平川 和	

### 講義の内容・方法および到達目標

Reading力の向上をめざす。英語には大きく分けて4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）があるが、まずReading力の基礎がなければ、他の3技能を伸ばすことは難しい。具体的な到達目標は以下の4つになる。①語彙力の強化・重要文法事項の習得。②構造が複雑な文でも正確に和訳できるようになる。③比較的長い英語の文章を読みことに慣れ、その内容を正確に理解できるようになる。④様々なテーマの英文エッセーを読み、教養を身につける。

### 授業計画

第1回	イントロダクション	第16回	イントロダクション
第2回	Unit1: Cross-Cultural	第17回	Unit5: Fashion
第3回	Unit1: Cross-Cultural	第18回	Unit5: Fashion
第4回	Unit1: Cross-Cultural	第19回	Unit5: Fashion
第5回	Unit1: Cross-Cultural	第20回	Unit7: Art
第6回	Unit1: Cross-Cultural	第21回	Unit7: Art
第7回	Unit2: Foods	第22回	Unit7: Art
第8回	Unit2: Foods	第23回	Unit14: Legal Issues
第9回	Unit2: Foods	第24回	Unit14: Legal Issues
第10回	Unit2: Foods	第25回	Unit14: Legal Issues
第11回	Unit4: Sports	第26回	Unit15: Technology
第12回	Unit4: Sports	第27回	Unit15: Technology
第13回	Unit4: Sports	第28回	Unit15: Technology
第14回	Unit4: Sports	第29回	Unit15: Technology
第15回	まとめ（筆記試験）	第30回	まとめ（筆記試験）

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ Ambitions: Pre-intermediate（静哲人他編著、金星堂）

### 成績評価方法

- ・ 「出席」「授業中に実施する小テスト」「授業中に実施するグループワーク」（合わせて50%）、まとめの筆記試験（50%）を基準に評価する。
- ・ 提出物や小テスト、まとめの試験の形式についてはその都度説明するが、いずれもテキストの内容とレベルに基づいたものである。
- ・ 授業に取り組む姿勢も成績評価に含む。
- ・ 欠席が5回を越えた場合は評価の対象外とする。

### その他

- ・ 辞書は各自持参すること。授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。
- ・ 受講生の理解度によっては上記授業計画の一部を変更することもある。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 村井 美代子	

#### 講義内容・方法および到達目標

- ・国内外の様々な分野のニュース15項目を選び、各章350～600語程度の読み切り形式にまとめたテキストを読む。メディアで使われている英語に慣れ、情報の要点を的確に把握できる読解力を養っていく。
- ・各章にはリーディング課題だけでなく、写真を描写する英文の聞き取り、要約文の穴埋め、英文内容の理解や語彙力を問う問題も用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

#### 授業計画

- ・1つの章を2回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	第7章 少年刑務所
2回	第1章 テクノロジー①	17回	第8章 ビジネス・政治②
3回	スマートスピーカー	18回	インスタ映え
4回	第2章 テクノロジー②	19回	第9章 環境①
5回	未来のエコカー	20回	食品ロス
6回	第3章 社会①	21回	第10章 環境②
7回	土俵の女人禁制	22回	海洋生物
8回	第4章 社会②	23回	第11章 海外①
9回	「晴れの日」を台なしに	24回	エベレスト、単独登山禁止
10回	第5章 社会③	25回	第12章 海外②
11回	強制不妊手術の真実	26回	「焼き場に立つ少年」
12回	第6章 社会④	27回	第13章 海外③
13回	NHK受信料訴訟	28回	命のための行進
14回	第7章 ビジネス・政治①	29回	第14章 海外④
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

『ニュース英語で世界に飛び込む』（三修社）

#### 成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点＝7：3

講義科目 :独語 I	単位数 :2
マークシート略 :〔独語 I〕	学習形態 :選択必修科目
担当 :今本 幸平	

### 講義の内容・方法および到達目標

初めてドイツ語を学習する人のための授業です。

まず教員による文法の説明、その後に各自で練習問題を解き、答えを口頭で発表（あるいは黒板に板書）してもらいます。音読の練習も毎回行います。講義の方法は一般的な語学の授業とほぼ同様の形式ですが、講義を聴くだけでなく、「説明に基づいて自分でやってみる」という受講態度が求められます。

アルファベットや単語の読み方（発音）から入り、簡単な文を理解して自分でも作れるようになり、ドイツ語検定試験の5級から4級程度（中学1、2年の英語と同程度）のドイツ語が理解できるようになることを目指します。

### 授業計画（下記は予定です。実際の進度は受講生の理解度に応じて調整します）

第1回 ガイダンス、アルファベット	第16回 前期の復習
第2回 アルファベット、単語の読み方	第17回 第5課 複数形
第3回 単語の読み方（挨拶、数字など）	第18回 第5課 人称代名詞
第4回 第1課 文の作り方（動詞）	第19回 第5課 練習問題
第5回 第1課 重要な動詞、語順の原則	第20回 第6課 前置詞①
第6回 第1課 練習問題	第21回 第6課 前置詞②
第7回 第2課 名詞の性（冠詞）	第22回 第6課 練習問題
第8回 第2課 名詞の格	第23回 第7課 形容詞の使い方
第9回 第2課 練習問題	第24回 第7課 練習問題
第10回 第3課 不規則動詞	第25回 第8課 助動詞、未来形
第11回 第3課 命令形、練習問題	第26回 第8課 練習問題
第12回 第4課 定冠詞の仲間	第27回 第9課 分離動詞
第13回 第4課 不定冠詞の仲間	第28回 第9課 文のつなぎ方
第14回 第4課 練習問題	第29回 第9課 練習問題
第15回 前期まとめ、テスト	第30回 後期まとめ、テスト

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』白水社
- ・独和辞典（初回の授業で紹介します）
- \*教科書と辞書は両方とも必ず毎回持参すること。

### 成績評価方法

原則的には前、後期末に行うテストの平均点で評価します。授業中に理解度確認のための小テストを行う場合がありますが、その点数は参考程度とします。前後期とも10回以上の出席がなければ成績評価の対象外とします（遅刻・早退は0.5回の欠席とみなします。出席状況による減点や加点は行いません）。欠席、遅刻等の回数は必ず各自で把握しておいてください。

### その他

週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、こまめに予習と復習をしてください。単語の意味を辞書で調べる、授業でやった個所の例文を教科書付属のCDで聴き、暗唱してみるなど、自分でできることはたくさんあります。

講義科目 : 仏語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [ 仏語 I ]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 井出 勉	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

#### 授業計画

第1回	フランス紹介・発音	第16回	数字・年齢
第2回	綴り字の読み方・挨拶	第17回	部分冠詞
第3回	発音練習・挨拶	第18回	食べ物・飲み物
第4回	挨拶・自己紹介の仕方	第19回	カフェでの注文の仕方
第5回	名詞の性と数・不定冠詞	第20回	～に行く・～から来た
第6回	形容詞①	第21回	所有形容詞・強勢形
第7回	形容詞②・定冠詞	第22回	比較級
第8回	基本動詞の活用	第23回	命令形
第9回	3通りの疑問文の作り方	第24回	曜日と日付
第10回	指示代名詞・～が好き	第25回	天候・時刻
第11回	否定文	第26回	近接未来・近接過去
第12回	動詞～を持つとその慣用表現	第27回	過去分詞の作り方
第13回	疑問形容詞	第28回	複合過去①
第14回	動詞～をするとその慣用表現	第29回	複合過去②
第15回	まとめと確認：試験	第30回	まとめと確認：試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社  
辞書：講義冒頭で紹介  
参考文献については講義中に紹介

#### 成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%  
年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

講義科目 : 中国語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 花尻 奈緒子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎発音 声調と母音	第17回	名詞句「～する○○」
第3回	基礎発音 鼻韻母と子音	第18回	動詞述語文
第4回	基礎発音 ピンインの規則	第19回	動詞の重ね形・数字②
第5回	基礎発音 軽声	第20回	選択疑問文
第6回	基礎発音 声調の変化・数字①	第21回	疑問詞疑問文
第7回	人称・指示代名詞	第22回	完了形「～しました」
第8回	名詞句「～の○○」①	第23回	「有」と金額の言い方
第9回	名詞句「～の○○」②	第24回	二重目的語をとる動詞
第10回	是述語文「～は…です」	第25回	年月日・曜日・時刻
第11回	程度を表す副詞	第26回	名詞述語文・時間状語
第12回	名詞句「どんな○○」	第27回	助数詞
第13回	形容詞述語文①	第28回	方位詞・存在文
第14回	形容詞述語文②	第29回	前置詞・連動文
第15回	主術述語文	第30回	復習と総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト・中国語 I 基礎」

#### 成績評価方法

出席50%、前・後期の期末試験50%

#### その他

予習復習を欠かさずに行うこと。

講義科目 : 体育講義	単位数 : 2
マークシート略 : [体育講義]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石川 拓次	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・健康・疾患と生活習慣の関係について理解する。
- ・トレーニングに関する知識を理解する。
- ・スポーツイベントやスポーツに関する諸問題について理解する。

#### 授業計画

回	講義内容	課題
第1回	オリエンテーション・コンセンサスゲーム	
第2回	健康とは？	
第3回	身体の仕組み（内科編）	
第4回	内科的疾患①生活習慣病	
第5回	内科的疾患②がん・感染症	
第6回	身体の仕組み（運動器編）	
第7回	トレーニングと健康（骨格筋と運動）	
第8回	トレーニングと健康（呼吸循環器と運動）	レポート課題①
第9回	こどもとスポーツ	
第10回	高齢者とスポーツ	
第11回	女性とスポーツ	
第12回	スポーツ外傷・障害の基礎	
第13回	スポーツと栄養	
第14回	スポーツに関わる諸問題	
第15回	スポーツイベント	レポート課題②

#### 教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は授業で適宜配布します。

#### 成績評価方法

レポート課題（2題） 80%

授業参加態度 20%

#### その他

・能動的に受講することを期待します。積極的に発言、意思表示等をしましょう。

講義科目 : 体育実技	単位数 : 1
マークシート略 : [体育実技]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石川 拓次	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・身体を動かす楽しさを知る。
- ・生涯スポーツを実践するための基礎を培う。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション・コミュニケーションゲーム
2回	バスケットボール (1) 基本動作 (パス、ドリブル、シュート)
3回	バスケットボール (2) 総当たり戦1
4回	バスケットボール (3) 総当たり戦2
5回	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド)
6回	バレーボール (2) 総当たり戦1
7回	バレーボール (3) 総当たり戦2
8回	卓球 (1) 基本的なストローク
9回	卓球 (2) 総当たり戦1 シングルス
10回	卓球 (3) 総当たり戦2 ダブルス
11回	ニュースポーツ (1) インディアカ
12回	ニュースポーツ (2) インディアカ
13回	バドミントン (1) 基本的なストローク
14回	バドミントン (2) 総当たり戦1
15回	実技試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストの使用予定はありません。各自、上記種目の試合の進行方法やルールなどは調べて把握しておきましょう。

#### 成績評価方法

実技試験 (50%) ・ レポート課題 (50%)

・ 欠席4回で単位不可とします (忌引等やむ負えない事情がある場合はこの限りではありません)。

#### その他

・ 能動的に受講することが求められる授業です。積極性を欠いた態度の場合は減点あるいは不可となります。

・ 実技にふさわしい服装 (髪、爪などを含む) とシューズを着用すること。

・ アクセサリー類はけが防止の観点から必ず外して受講して下さい。

・ 授業計画に挙げた運動種目は受講者の人数や体力レベルに応じて適宜変更します。

講義科目 : 生命科学	単位数 : 2
マークシート略 : [生命科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 狩野 幹人	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。
- ・「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加え、生物学の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス (科学、自然科学における生命科学)
- 第2回 細胞の構造
- 第3回 細胞の形質、機能
- 第4回 細胞の活動
- 第5回 タンパク質の役割
- 第6回 多細胞生物への展開 (1)
- 第7回 多細胞生物への展開 (2)
- 第8回 免疫システム (1)
- 第9回 免疫システム (2)
- 第10回 免疫システム (3)
- 第11回 細胞の再生と死
- 第12回 環境の認識、調節
- 第13回 生物の進化と多様性、生物多様性条約とは
- 第14回 生命科学と知的財産 (1)
- 第15回 生命科学と知的財産 (2)

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第3版)、和田勝、羊土社 (2015)」を教科書として用いる。また必要な補足資料を、講義の中で随時配布する。
- ・参考文献としては、生命科学については「分子生物学講義中継、井出利憲、羊土社」シリーズが挙げられる。知的財産については「産業財産権標準テキストー総合編ー、特許庁発行」や「産業財産権標準テキストー特許編ー、特許庁発行」等が挙げられる。その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

#### 成績評価方法

- ・毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ・出席率およびレポート (2回を予定) により評価する。

講義科目 : 自然と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [自然科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 狩野 幹人	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 1985年アメリカ発のプロパテント（知的財産，特に特許重視）を経て、2004年からは、アメリカやヨーロッパ、日本をはじめとするプロイノベーション（イノベーション重視）の時代となった。イノベーション（価値形成）の形態は多種多様であるが、その1つは科学・技術に立脚している。
- ・ 本講義では、「科学」のうち、とくに自然を対象とした「自然科学」とは何か？について、その歴史も含めて焦点をあてる。また「科学」「自然科学」と「技術」との関係について、「技術」とは何か？も含めて解説する。また「科学・技術」を保護するための知的財産や、「科学・技術」の発展の基盤となる「倫理」との関係についても解説する。
- ・ 「科学」「技術」の本質を学び、「科学・技術」がイノベーションに果たす役割について理解することを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（科学とは）
- 第2回 科学と自然科学
- 第3回 近代科学のはじまり－宗教と科学、中世ヨーロッパ、大学
- 第4回 技術とは（1）－科学・技術
- 第5回 技術とは（2）－産業革命
- 第6回 知的財産とは
- 第7回 科学・技術と知的財産（1）
- 第8回 科学・技術と知的財産（2）
- 第9回 イノベーションとは
- 第10回 科学・技術とイノベーション（1）
- 第11回 科学・技術とイノベーション（2）
- 第12回 日本における科学・技術の発展とイノベーション
- 第13回 科学・技術と戦争
- 第14回 科学・技術と倫理（1）－コンプライアンス
- 第15回 科学・技術と倫理（2）－リスクマネジメント

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 教科書は使用しない。必要な資料を、講義の中で随時配布する。
  - ・ 参考文献としては、
    - 「科学・技術と現代社会 上・下、池内了、みすず書房（2014）」
    - 「イノベーションのジレンマ、C. M. クリステンセン、翔泳社（2001）」
    - 「科学技術白書、文部科学省、[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/kagaku.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kagaku.htm)」
- 等が挙げられる。その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

#### 成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ・ 出席率およびレポート（2回を予定）により評価する。

#### 実務経験

大学における産学連携・知的財産部門において、研究と実務に従事。大学院においてイノベーションに関する講義や研究指導にも従事している。内容の暗記ではなく、理解・考えてもらえるよう工夫したい。

講義科目 : 情報と社会	単位数 : 2
マークシート略 : [情報社会]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。また、以下の三つの内容で構成されている。

一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ITの発達により、社会の生活様式は大きく変化し、誰もが簡単に情報を取得・発信できる世の中になっている。その一方で、個人情報流出、ネット上での誹謗中傷・不法行為などの新たな問題が発生している。このような社会で、他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごす方法を解説する。

二つ目は、言語処理技術に関することである。現在、インターネット上を中心に、多くの言語データが蓄積されており、それらのデータに対して、言語処理技術を活用することで、多くのサービスが提供され、人々に利用されている。講義では、言語処理技術を用いたシステムの仕組みを紹介する。

三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。

#### 授業計画

- 第1回 インターネット概論
- 第2回 ネットワーク利用におけるマナー
- 第3回 個人情報とプライバシー
- 第4回 電子商取引
- 第5回 知的財産権・メディアリテラシ
- 第6回 ネットワーク不法行為
- 第7回 情報技術とセキュリティ
- 第8回 情報倫理とリテラシ
- 第9回 言語処理技術（文字コード、形態素解析）
- 第10回 言語処理技術（構文解析、意味解析）
- 第11回 言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）
- 第12回 言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）
- 第13回 システム開発とマネジメント
- 第14回 システム構成と故障対策
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：大島他「ケースで考える情報社会」【第2版】 三和書籍

#### 成績評価方法

出席をとる。結果を10%程度成績評価に反映させる。ただし、出席率が著しく悪い場合（1/3程度以下）は評価対象外とし、単位を認定しない。

毎回、課題を課す予定。その結果を90%程度成績評価に反映させる。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

### 講義の内容・方法および到達目標

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得することを到達目標に指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

### 授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書については、第1回の講義で指示する。

### 成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

Word課題：15点程度

Excel課題：20点程度

PowerPoint課題：10点程度

最終課題：40点程度

出席：15点程度

### その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

講義科目	:情報処理実習Ⅱ	単位数	:1
マークシート略	:〔情報実Ⅱ〕	学習形態	:選択科目
担当	:田中通	実務経験	:有

#### 講義の内容・方法および到達目標

ITが社会基盤のインフラとして定着し、現在ではその上でのスキルだけでなく、コミュニケーションがより重視されてきています。そのような社会環境の中で、その双方の理解の助けとなる講義を目指します。

コミュニケーションツールとして**blog**を用い、自らの行動によって変化する状況を、様々な角度から分析します。

講義を通して、敏速な情報発信、**Excel**ピボットテーブルを用いた大量データのクロス集計、論文形式の文書作成ができるようになります。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、**blog**作成
- 第2回 **blog**のカスタマイズ、画像入り記事の投稿、  
授業用記事への報告コメント  
Evernoteを用いたリポートの共有
- 第3回 Excelへのアクセスデータ入力、**CMS**とは
- 第4回 **blog**を通じた相互交流
- 第5回 HTML (1)
- 第6回 HTML (2): コンピュータで扱う色について、ショートカット演習
- 第7回 HTML (3): 文字装飾、画像表現、ハイパーテキスト
- 第8回 HTML (4): 内部リンク、外部リンク
- 第9回 HTML (5): 相互リンク
- 第10回 Excel (1): 基礎、連続データ入力、計算、グラフ作成
- 第11回 Excel (2): 中級、並び替え、フィルタ
- 第12回 Excel (3): データ合成、クロス集計
- 第13回 最終課題作成作業 (1): 各自でデータ解析
- 第14回 最終課題作成作業 (2)  
Word: Excelとの連携、箇条書き、表紙、段組み等
- 第15回 最終課題作成作業 (3): 仕上げ作業、査読

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義出席者に限りプリントを配布します。

#### 成績評価方法

出席状況と課題提出状況・内容から総合的に評価します。最終課題は論文形式文書作成になります。E-Mailで提出していただきます。

#### 実務経験

IT系会社を20年経営しています。実務経験を活かし、授業では実践的なデータ解析とそのプレゼンテーション力の養成に努めます。電子情報通信学会 正員です。

#### その他

出欠確認と同時に状況報告の機会があるので、極力欠席しないでください。

講義科目 :心理学	単位数 :2
マークシート略 :〔心理学〕	学習形態 :選択科目
担当 :高橋 彩	

#### 講義の内容・方法および到達目標

心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。心理学には、認知心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など多くの分野がある。

この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介することで、受講生が、人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できることを目指す。

#### 授業計画

- 第1回 心理学とはどのような学問か
- 第2回 知覚（大きさの恒常性、錯視）
- 第3回 学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
- 第4回 記憶（短期記憶、長期記憶）
- 第5回 動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）
- 第6回 感情（感情の機能、ストレス）
- 第7回 パーソナリティ（パーソナリティの調べ方）
- 第8回 知能（知能検査とIQ）
- 第9回 思考（推論、ヒューリスティックス）
- 第10回 発達（社会性の発達）
- 第11回 対人認知（印象形成、対人魅力）
- 第12回 集団（社会的促進、同調、態度変容）
- 第13回 臨床 精神的健康（気分障害）
- 第14回 心理学の応用（法、スポーツ、産業・組織）
- 第15回 まとめと最終試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト 二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版  
ISBN978-4-263-42223-6

#### 成績評価方法

試験70%と授業内での課題レポート30%で評価する。

講義科目 : 環境論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

#### 講義の内容・方法および到達目標

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 試験とまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する

#### 成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 : 発達と学習	単位数 : 2
マークシート略 : [発達学習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 東福寺 一郎	

### 講義の内容・方法および到達目標

- ①生涯発達の観点から誕生から死に至るまでの発達の变化について、ビデオを多用しながら解説します。
- ②行動分析的立場と認知心理学的立場から人の学習について、パワーポイントを使用しながら講じます。
- ③人の生涯について心理学的見地から考えることができ、必要に応じて自己や家族の生き方を見つめる力を育みます。

### 授業計画

- 第1回 人間の発達の可塑性 ビデオにより人間の発達の不思議について学ぶ。
- 第2回 人間の発達の可塑性 第1回のつづき。
- 第3回 発達の研究法 発達の考え方と研究方法について
- 第4回 乳児期 新生児期を含め、生後1歳半位までの発達の变化。
- 第5回 幼児期 パーソナリティの基本が形成される幼児期の心理学的特徴。
- 第6回 児童期 小学校の時期にあたる児童期の発達の变化。
- 第7回 青年期 自我同一性の達成を中心にした青年期の心理学的特徴。
- 第8回 教育とカウンセリングの関係について、ビデオを見ながら考える。  
小テスト実施。
- 第9回 成人・高齢期 成人後死に至るまでの発達の变化。
- 第10回 学習の諸相 学習の定義。学習にかかわるさまざまな知見。
- 第11回 行動分析の考え方 スキナーの行動分析の考え方について解説。
- 第12回 行動分析の考え方(2) プログラム学習を用いて前回の復習。
- 第13回 人間の記憶過程 認知心理学の立場から記憶情報処理について解説。
- 第14回 認知心理学と教育 認知心理学が教育に果たす役割について(ビデオ)
- 第15回 まとめと最終試験

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しません。参考文献は講義の中で適宜紹介します。

### 成績評価方法

- ①出席を毎回取ります。6回以上欠席した場合には評価の対象外です。
- ②毎回、その日の講義内容についての感想やコメントを求めます。その内容により、毎回2点満点で評価します。
- ③小テスト15点、コメントへの評価点28点(予定)、最終試験57点(予定)とし、その合計により評価します。

### その他

毎回ビデオやパワーポイントを用いることにより、学生の興味を喚起したいと思っております。これからの社会生活や家庭生活において有意義なものとなるようにしていきます。

講義科目 :生涯学習論	単位数 :2
マーケット略 :[生涯学習]	学習形態 :選択科目
担当 :長島 洋	実務経験 :有

### 講義の内容・方法および到達目標

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人がつながり、その学んだ成果を地域に活かしあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさともを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、企画してもらいます。ふるさとや三重が輝けるよう進めていきます。

### 授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。また、課題を解決するための方策を考えます。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの企画・立案・評価

### 教材・テキスト・参考文献等

その都度、資料を配布します。

参考文献は講義中紹介。

### 成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要視。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。4回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

### 実務経験

生涯学習・社会教育分野において、三重県教育委員会・文部科学省・三重県生涯学習センターにおいて15年勤務。現在、三重県生涯学習センターにおいて所長をしている。国立社会教育研修所において、指導主事として、全国生涯学習・社会教育行政職員等に指導及び助言。社会教育主事の資格も有しており、研修講師として実績がある。

### その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

講義科目 : 差別と人権	単位数 : 2
マークシート略 : [差別人権]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上田 浩	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思ひます。

#### 授業計画

- 第1回 現代社会と人権：授業概説
- 第2回 近代的人権の成立の歴史
- 第3回 ロックの人権思想
- 第4回 近代的人権の特徴と課題
- 第5回 近代的人権の問題点
- 第6回 人権の拡張の過程
- 第7回 基本的人権と日本国憲法
- 第8回 現代の人権の諸問題
- 第9回 職場における人権
- 第10回 ワーキング・プアを考える
- 第11回 男女賃金格差の現状
- 第12回 DVと女性の権利
- 第13回 不登校・いじめと子どもの権利
- 第14回 児童虐待と社会
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。  
参考文献については授業時に指示します。

#### 成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。  
出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。  
6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。  
レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

講義科目	:ジェンダー論	単位数	:2
マークシート略	:[ジェンダ]	学習形態	:選択科目
担当	:松田 いりあ		

#### 講義の内容・方法および到達目標

・この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。

・授業は基本的に講義形式で行うが、随時、授業内課題を実施し、提出された課題をもとに、受講生とともに考える機会を設ける。

・この授業では、受講生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

#### 教材・テキスト・参考文献等

使用しない。授業中に適宜指示する。

#### 成績評価方法

レポート70%、授業内課題30%

#### その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
マークシート略 : [歴史学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 望月 秀人	

#### 講義の内容・方法および到達目標

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にしてください。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

#### 成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

#### その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにしてください。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにしてください。

講義科目 : 地理学(地誌を含む)	単位数 : 2
マークシート略 : [地理学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山崎 智博	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題を考えていけることを目標にします。

#### 授業計画

- ・ 1つのテーマを2回の授業で扱う予定です。ただし、地図や映像資料等を扱うので授業進行の速度は調整することもあります。

- 第1回 地域・都市の形成(ガイダンス)
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興都市計画①
- 第10回 戦災復興都市計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめ(筆記試験)

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。  
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年  
平岡昭利・野間晴雄編「近畿Ⅰ 地図で読む百年」古今書院 2006年

#### 成績評価方法

- ・ 出席は毎回取ります。
- ・ 最終授業時に試験を行います。
- ・ 試験(85%)・出席(15%)を基準に判断します。

#### その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

講義科目 : 哲学	単位数 : 2
マークシート略 : [哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 吉本 陵	

#### 講義の内容・方法および到達目標

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考する必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を学び、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味の問題を哲学的に考察する。授業は講義形式で行い、上記の論点について自ら論述できるようになることを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なもの考え方 (I)
- 第3回 哲学的・倫理的なもの考え方 (II)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (I)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (II)
- 第6回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (I)
- 第7回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (II)
- 第8回 インフォームドコンセントと自己決定の問題 (III)
- 第9回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (I)
- 第10回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (II)
- 第11回 ケアの倫理――「尊厳死」をめぐるいのちの対話 (III)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (I)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (II)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (III)
- 第15回 全体の総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

#### 成績評価方法

最終回に行う論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

#### その他

各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

講義科目 : 文学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [文学 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

#### 講義の内容・方法および到達目標

この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げます。時代も国も我々がいる日本からは遠く離れたところで書かれた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は今の我々にも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手掛かりもなく読んでもピンとこない部分も出てくると思いますので、適宜画像や音声などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化など、周辺の事柄も視野に入れつつ文学作品を味わう上での要点を示していきたいと思います。

文学作品に親しみ、読んだ作品に対する感想や意見などを自分の言葉で表現できるようになることがこの授業の目標です。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』①
- 第3回 『ロミオとジュリエット』②
- 第4回 『ロミオとジュリエット』③
- 第5回 『ロミオとジュリエット』④
- 第6回 シェイクスピアの喜劇『夏の夜の夢』①
- 第7回 『夏の夜の夢』②
- 第8回 『夏の夜の夢』③
- 第9回 民衆本の世界『ティル・オイレンシュピーゲル』
- 第10回 伝説と文学① 民衆本『ファウスト博士』
- 第11回 伝説と文学② モリエール『ドン・ジュアン』
- 第12回 文学作品とオペラ① メリメ『カルメン』
- 第13回 文学作品とオペラ② デュマ・フィス『椿姫』①
- 第14回 『椿姫』②
- 第15回 前期まとめ、テスト

\* 取り上げる作品、順序などは変更する場合があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

使用する資料は授業開始前に教室前方に置いておくので各自取ってください。

#### 成績評価方法

- ・学期末に800～1000字程度の小論文のテストを行い、その内容で成績評価をします。テーマは事前に通知します（6月半ばに通知予定）。
- ・出席が全授業の3分の2に満たない場合は成績評価の対象外となります。自分の欠席回数は各自で把握しておいてください。
- ・毎回作品に関連する課題コメント（100～200字程度）を書いて提出してもらい、それで出席の確認をします（授業時に教室にいてもコメントを提出しなければ欠席扱いとなります）。出席状況による成績の減点・加点はしません。

#### その他

講義を聴くだけでなく、作品を自分でも読んで味わってください。

講義科目 : 文学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [文学Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

#### 講義の内容・方法および到達目標

この講義では18世紀から20世紀のドイツ文学の作品を取り上げます。難しそうに感じるかもしれませんが、文学の読み方に決まりや正解はありません。等身大で読めばよいのです。とはいえ、古い作品では手掛かりなしでは良く分からないことも出てくると思いますので、随時画像や音声などの資料も使って作者、当時の社会背景、文化など、作品以外の事柄も視野に入れて説明し、文学作品を味わう糸口を示していきたいと思います。

文学作品に親しみ、読んだ作品に対する感想や意見などを自分の言葉で表現できるようになることがこの授業の目標です。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ゲーテ『魔王』
- 第3回 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』①
- 第4回 『若きウェルテルの悩み』②
- 第5回 ゲーテ『ファウスト』第1部①
- 第6回 『ファウスト』第1部②
- 第7回 「グリム童話」
- 第8回 シャミッソー『影をなくした男』
- 第9回 ホフマン『砂男』
- 第10回 シュピーリ『ハイジ』
- 第11回 カフカ『変身』
- 第12回 ジュースキント『コントラバス』
- 第13回 シュリンク『朗読者』①
- 第14回 『朗読者』②
- 第15回 まとめ、テスト

\* 取り上げる作品、順序などは変更する場合があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

使用する資料は授業開始前に教室前方に置いておくので各自取ってください。

#### 成績評価方法

- ・学期末に800～1000字程度の小論文のテストを行い、その内容で成績評価をします。テーマは事前に通知します（12月半ばに通知予定）。
- ・出席が全授業の3分の2に満たない場合は成績評価の対象外となります。自分の欠席回数は各自で把握しておいてください。
- ・毎回作品に関連する課題コメント（100～200字程度）を書いて提出してもらい、それで出席の確認をします（授業時に教室にいてもコメントを提出しなければ欠席扱いとなります）。出席回数による成績の減点・加点はしません。

#### その他

- ・講義を聴くだけでなく、自分で作品を読んで味わってください。
- ・「文学Ⅰ」を履修していなくても受講可能です。

講義科目 : 美学	単位数 : 2
マークシート略 : [美学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岡野 智子	

### 講義の内容・方法および到達目標

日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の身近な花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学、また歌舞伎などの芸能とも深い関わりをもつ。本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、主に絵画や工芸品を通じて多方面から考察する。今日も見出される伝統的な意匠の意義を知ることは、個性的な表現を求められる現代においてこそ深い示唆となり得よう。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・日本美術の成立1（縄文～平安）
- 第2回 日本美術の成立2（平安～江戸）
- 第3回 吉祥の意匠―福を招く図様―
- 第4回 桜の意匠―桜への想いとその表象―
- 第5回 涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―
- 第6回 秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―
- 第7回 冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―
- 第8回 五節句1―邪を祓い季節を楽しむ―
- 第9回 五節句2―邪を祓い季節を楽しむ―
- 第10回 月次の花鳥と行事―歌絵の広がり―
- 第11回 伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―
- 第12回 源氏物語の意匠―留守模様遊ぶ―
- 第13回 歌舞伎の意匠―粹と飾りの美意識―
- 第14回 動物の意匠―霊獣からペットまで―
- 第15回 渡来の意匠―憧れの南蛮ファッション―

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は『日本の意匠』、『続日本の意匠』シリーズ（京都書院）、『日本の文様』シリーズ（小学館）、『カラー版 日本美術史』（美術出版社）、『すぐわかる日本の美術』（東京美術）他。

### 成績評価方法

出欠票を兼ね、毎回講義で触れた作品の中から1点を選びコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ④の提出資格が得られる。

評価は①出席点25% ②コメント内容の評価25% ③事前事後の自己学習として全国各地の展覧会等の見学レポートの提出25% ④レポート（②・③を応用した独自の展覧会企画案）25%

### その他

日本で育まれてきた美意識や伝統の背景にある多様な文化。その成立と魅力を知ることが即ち自身を知ることと気づき、豊かな人間性の構築に役立ててほしい。授業の予習復習として、各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、見る目を養うこと。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを強く推奨する。

講義科目 : 比較文化論	単位数 : 2
マークシート略 : [比較文化]	学習形態 : 選択科目
担当 : 竹添 敦子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの見え方、考え方の違いを探ります。本年度は「視線・境界」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を観て講義内容を要約し、自分の意見をまとめるレポートを作成します。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討し、西欧の文化、日本の文化について自分なりの考えを導き出すことが目標です。

#### 授業計画

第 1回 文化を比較するとはどういうことか	第 9回 日本の境界（曖昧・引き算）
第 2回 おとぎ話の比較（日本の昔話）	第10回 西欧の境界（明確・足し算）
第 3回 おとぎ話の比較（西欧の昔話）	第11回 日本の姿勢（「座」を考える）
第 4回 文化の特徴を見つける（視線を通じ）	第12回 西欧の姿勢（「立」を考える）
第 5回 日本の視線（菓子の色彩など）	第13回 日本の道具（「包む」文化）
第 6回 西欧の視線（菓子の形など）	第14回 西欧の道具（「入れる」文化）
第 7回 日本の視線（陰影・間取りなど）	第15回 まとめと確認（試験）
第 8回 西欧の視線（光の意味）	

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 毎回A4一枚にまとめたレジュメを配付し、それに基づいて講義を進めます。

#### 成績評価方法

- ・ 小レポート（毎回実施、70%）と最終試験（論述式、30%）を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します（毎回の小レポートによって出席の確認をします）。
- ・ 小レポートは採点（5点満点）後、返却します。講義開始前の教室に、コースごと、学籍番号順に並べていますので、各自受け取ってください。欠席した場合でも前回のレジュメを添付して並べています。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で小レポートの氏名欄にイエローラインがはいられます。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります（まとめの最終試験を受けることはできません）。

講義科目 :英会話	単位数 :2
マークシート略 :〔英会話〕	学習形態 :選択科目
担当 :ローランス ドライデン	

#### 講義の内容・方法および到達目標

This course is designed for students to improve and develop their communication skills in English.

This course focuses on the students' ability to express their opinions and acquire effective English strategies in speaking, listening, reading, and writing.

Students develop communication skills for presenting their own ideas and sharing information with others.

This course is designed to help students gain confidence in English communication by speaking, listening, reading, and writing through class activities.

Students work individually, in pairs, and small groups.

Students should prepare posters before presentations and review the handouts provided by the teacher.

Only English is used on this course.

#### 授業計画

- 第1回 Orientation: Course overview, goal setting
- 第2回 Extensive Reading: Orientation and activities
- 第3回 Animal world: Discuss in pairs: Main characters
- 第4回 Animal world: Discuss in groups: Impressive scenes
- 第5回 Animal world: Make posters: Review
- 第6回 Animal world: Presentation in groups
- 第7回 Fairy tale: Discuss in pairs: Main characters
- 第8回 Fairy tale: Discuss in groups: Impressive scenes
- 第9回 Fairy tale: Make posters: Review
- 第10回 Fairy tale: Presentation in groups
- 第11回 Historical events: Discuss in pairs: Main characters
- 第12回 Historical events: Discuss in groups: Impressive scenes
- 第13回 Historical events: Make posters: Review
- 第14回 Historical events: Presentation in groups
- 第15回 Discussion in groups: Three themes

#### 教材・テキスト・参考文献等

No textbook. The teacher will provide all materials for classroom activities. The teacher will provide information in the classroom.

#### 成績評価方法

Participation and classwork (20 %)  
Presentations (20 % × 3 times = 60 %)  
Final report (20 %)

#### その他

Students with more than five unexcused absences will not receive course credit.

講義科目 : 英語講読	単位数 : 2
マークシート略 : [英語講読]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

#### 講義内容・方法および到達目標

- ・ビジネス心理学の観点から、職場で起こり得る様々な場面を想定して15のテーマにまとめたテキストを読む。各レッスンは読み切り形式で、350～450語程度にまとめられている。面接の心得や対人関係へのアドバイスなどの様々な処世術を、的確に把握できる読解力と語彙力を養う。
- ・各レッスンにはリーディング課題だけでなく、語彙やイディオムに関連する問題や、正答を音声で確認する問題、短い英文内容を速読で理解する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

#### 授業計画

- ・1つの章を2回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	社内で自分らしく
2回	Lesson 1	17回	Lesson 8
3回	ビジネス心理学とは何か?	18回	ギブ・アンド・テイク
4回	Lesson 2	19回	Lesson 9
5回	就職活動の心理学	20回	職場のゴシップ
6回	Lesson 3	21回	Lesson 10
7回	積極的な休暇のすすめ	22回	職場の仕切りたがり屋
8回	Lesson 4	23回	Lesson 11
9回	ロボットとともに働く	24回	行いの立派なのが立派な人
10回	Lesson 5	25回	Lesson 12
11回	会社は男社会①	26回	私の空間、あなたの空間
12回	Lesson 6	27回	Lesson 13
13回	会社は男社会②	28回	起業家になるためには
14回	Lesson 7	29回	Lesson 14 ブレインストーミングと情報化社会
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

『Mind Matters 社会で役立つビジネス心理』（南雲堂）

#### 成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点＝7：3

講義科目 : 総合英語	単位数 : 2
マークシート略 : [総合英語]	学習形態 : 選択科目
担当 : ドライデン いづみ	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義ではテキストのTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップとスキルアップを目指す。

テキストのTOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目標とする。授業方法としては、TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成し、TOEICテストのリスニング・リーディングの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。

#### 授業計画

第1回 Unit 1 : Listening	第16回 Unit 8 : Listening
第2回 Unit 1 : Reading	第17回 Unit 8 : Reading
第3回 Unit 2 : Listening	第18回 Unit 9 : Listening
第4回 Unit 2 : Reading	第19回 Unit 9 : Reading
第5回 Unit 3 : Listening	第20回 Unit 10 : Listening
第6回 Unit 3 : Reading	第21回 Unit 10 : Reading
第7回 Unit 4 : Listening	第22回 Unit 11 : Listening
第8回 Unit 4 : Reading	第23回 Unit 11 : Reading
第9回 Unit 5 : Listening	第24回 Unit 12 : Listening
第10回 Unit 5 : Reading	第25回 Unit 12 : Reading
第11回 Unit 6 : Listening	第26回 Unit 13 : Listening
第12回 Unit 6 : Reading	第27回 Unit 13 : Reading
第13回 Unit 7 : Listening	第28回 Unit 14 : Listening
第14回 Unit 7 : Reading	第29回 Unit 14 : Reading
第15回 Practice Test 1	第30回 Practice Test 2

#### 教材・テキスト・参考文献等

「一歩上を目指すTOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 1 - Basic- (STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST: Level 1- Basic- )」

北尾泰幸 / 西田晴美 / 林姿穂 / Brian Covert (著)

1,836円(本体1,700円+税)

朝日出版社 (ISBN: 978-4-255-15614-9)

#### 成績評価方法

40% Practice Test

40% 課題 (予習及び提出物)

20% 出席及び授業参加

#### その他

5回の授業欠席で失格となりますので注意すること。

テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。

辞書は必携すること。

授業計画はクラスの進度によって変更することがあります。

講義科目 :独語Ⅱ	単位数 :2
マークシート略 :〔独語Ⅱ〕	学習形態 :選択科目
担当 :今本 幸平	

### 講義の内容・方法および到達目標

「独語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行います。初めてドイツ語を学ぶ方は「独語Ⅰ」を受講して下さい。

「独語Ⅰ」で扱えなかった文法事項を学習した後、やや発展的な教材（簡単な読み物、検定試験対策問題など）を用いて、初級文法の定着を図り、ドイツ語検定試験4級から3級程度（中学2、3年の英語と同程度）のドイツ語が理解できるようになることを目指します。

### 授業計画

第1回 ガイダンス、復習①	第16回 前期テストの復習
第2回 復習②	第17回 zu不定詞
第3回 ドイツ語検定5級の問題①	第18回 練習問題
第4回 ドイツ語検定5級の問題②	第19回 関係代名詞
第5回 動詞の過去形、過去分詞	第20回 練習問題
第6回 練習問題	第21回 接続法
第7回 現在完了形	第22回 練習問題
第8回 練習問題	第23回 検定試験対策問題①
第9回 受動態	第24回 検定試験対策問題②
第10回 練習問題	第25回 読解問題①
第11回 形容詞、比較表現	第26回 検定試験対策問題③
第12回 練習問題	第27回 検定試験対策問題④
第13回 再帰代名詞	第28回 読解問題②
第14回 練習問題	第29回 読解問題③
第15回 前期まとめ、テスト	第30回 後期まとめ、テスト

\*前年の「独語Ⅰ」の進度、受講生の理解度に応じて内容は適宜変更します。

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・「独語Ⅰ」で使用した独和辞典
- ・「独語Ⅰ」で使用した教科書
- ・プリント（必要に応じて事前に配布します）

### 成績評価方法

原則的には前、後期末に行うテストの平均点で評価します。授業中に理解度確認のための小テストを行う場合がありますが、その点数は参考程度とします。各期とも10回以上の出席がなければ成績評価の対象外とします（遅刻・早退は0.5回の欠席とみなします。欠席回数による減点や加点は行いません）。欠席、遅刻等の回数は必ず各自で把握しておいてください。

### その他

辞書と教科書は毎回持参してください。知らない単語の意味を辞書で調べる、教科書で文法事項の確認をするなど、能動的に学習するとより記憶が定着しやすくなります。授業中に疑問があれば遠慮なく質問してください。

講義科目 : 仏語Ⅱ	単位数 : 2
マーケット略 : [ 仏語Ⅱ ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岩本 篤子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 仏語Ⅰに続き、フランスの美しい一地方について書かれたテキストを用い、文法の説明、受講者による訳に基づいて会話と文法を学ぶ。  
フランス文化に親しめるよう、映像・歌の視聴をたびたび行う。
- ・ 会話の暗記、聞き取りを通じて発音を定着させ、フランス語検定5級さらに4級の実力を養うことを目標とする。

#### 授業計画

第1回	仏語Ⅰで習ったことの確認	第16回	13課 過去のことを話す
2回	仏語Ⅰの対話文復習	17回	13課の続き
3回	8課 興味を述べる	18回	13課の続き
4回	8課の続き	19回	2種類の過去形の確認
5回	9課 誘う	20回	過去形の練習問題
6回	9課の続き	21回	仏検4級をめざして2
7回	9課の続き	22回	14課 仮定する
8回	綴り字の読み方と音節の復習	23回	14課の続き
9回	10課 天候と時刻	24回	仮定表現の練習問題
10回	10課の続き	25回	重要な動詞の復習
11回	仏検4級をめざして1	26回	基本動詞を用いた役に立つ表現
12回	11課 数量を表す	27回	役に立つ表現の確認
13回	11課の続き	28回	仏語Ⅱの対話文復習
14回	11課の続き	29回	講読部分の読み復習
15回	12課 比較する	30回	全体の復習と小テスト最終回

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ボルドー」 朝日出版社

#### 成績評価方法

- ① 授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ② 6回以上欠席すると単位を認めない。

#### その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。  
仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張って続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）

講義科目 : 中国語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 花尻 奈緒子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎発音の復習	第17回	第八課・色々な副詞
第3回	ピンインの規則の復習	第18回	第八課・金額の言い方
第4回	軽声・声調の変化	第19回	実践会話練習
第5回	アール化・数の表現	第20回	第九課・色々な助動詞
第6回	あいさつ語と応答練習	第21回	第九課・前置詞
第7回	リスニングチャレンジ	第22回	第九課・時点と時量
第8回	第五課・名前の言い方・きき方	第23回	実践会話練習
第9回	第五課・実践自己紹介	第24回	第十課・助数詞の応用
第10回	第六課・応用形容詞述語文	第25回	第十課・結果補語
第11回	第六課・形容詞の表現	第26回	長文講読
第12回	第七課・動詞の表現	第27回	第十一課・程度補語
第13回	第七課・動詞述語文の完了形	第28回	第十一課・方向補語
第14回	実践会話練習	第29回	第十一課・進行形
第15回	前期の復習と総括	第30回	復習および総括

#### 教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト・中国語Ⅰ演習」

#### 成績評価方法

出席50%、前・後期の期末試験50%

#### その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとの同時履修は望ましくありません。

講義科目 : 地域史	単位数 : 2
マークシート略 : [地域史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鈴木 えりも	

#### 講義の内容・方法および到達目標

史料や文献、作成資料を提示しながら各回のテーマを解説しながら、以下の事項を目標とする

- ①三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ②三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのか考える
- ③史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

#### 授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸蕃
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う  
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

#### 成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する  
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

#### その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと

欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない

講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

講義科目	:自治体行政特論	単位数	:2
マークシート略	:〔自治行政〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成	実務経験	:有

#### 講義の内容・方法および到達目標

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深めることを目標にしている。

#### 授業計画(予定)

第1回	オリエンテーション、津市の概況、選挙について
2回	津市シティプロモーション（広報課）
3回	津市の政策について（政策財務部）
4回	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）
5回	津市の教育について（教育委員会事務局）
6回	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）
7回	防災について（防災室）、津市議会傍聴にむけて
8回	津市議会傍聴【6月】
9回	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）
10回	都市計画について（都市計画部）
11回	財政について（政策財務部）
12回	環境行政について（環境部）
13回	津市の福祉について（健康福祉部）
14回	参加と協働のまちづくりについて（市民部）
15回	自治体経営（市長）

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

- 毎回の講義の概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

#### 成績評価方法

- ・出席状況、講義ノート、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

#### 実務経験

- ・講師は、現職の津市長を始め各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な自治体基礎知識の養成に努める。

講義科目 : 農林体験セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 : キャリア形成セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [キャリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	実務経験 : 有

#### 講義内容・方法および到達目標

- ・ 職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・ 本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。（講師は毎回変わります。）
- ・ 具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・ 全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・ 毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・ 1年生の履修を原則とします。

#### 授業計画

- ・ 講師の都合などによって前後することがあります。

第1回	キャリアとは何か（ガイダンス）
2回	地域を知る、地域で働く
3回	労働者を取りまく環境を知る
4回	地域を知る、地域で生きる
5回	自分を見つめる
6回	企業から求められる人材とは
7回	人生設計を考える
8回	国際協力という仕事
9回	働くことの意味
10回	栄養士として働く
11回	建築士として働く
12回	福祉に関わる仕事
13回	企業で働く
14回	働くことの意味を改めて考える
15回	まとめ（最終レポート作成）

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

#### 成績評価方法

- ・ 出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

#### 実務経験

津市長、津市商工観光部や労働局職員、社会保険労務士や栄養士、建築士、JICA職員等が、受講生の進路選択の一助となるよう、それぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などを話します。

講義科目 :食と観光実践	単位数 :2
マークシート略 :[ - ]	学習形態 :選択科目
担当 :楠本 孝	実務経験 :有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の重点課題である食と観光に対して、東紀州地域における世界遺産活用の観点から現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行います。
- ・三重県における社会的事象（観光客誘致、インフラ整備、事業継続性等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究します。本科目の特徴は合宿型（2泊3日）であるという点です。3～5人のグループワークを通して地域課題（「食と観光」）を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することを目標とします。
- ・地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮することができます。

#### 授業計画

##### ○事前学習

- 第1回 5月11日（土）13:00～17:00  
三重大学においてオリエンテーション、事前学習、グループワーク
- 第2回 6月15日（土）13:00～17:00  
三重県総合博物館において、博物館見学、講義、グループワーク

##### ○現地学習（合宿、2泊3日：8月28日～30日、宿泊先：ハマケン水産）

- 1日目 山間部観光地見学／フィールドワーク／講義／グループワークなど
- 2日目 沿岸部観光地見学／フィールドワーク／グループインタビュー／グループワークなど
- 3日目 グループインタビュー／成果発表に向けた取りまとめ、など

##### ○事後学習

- 第1回 9月9日（月）13:00～16:00  
三重大学にて食と観光に関する提案プレゼンテーション、事後レポートなど

※諸事情により実際の授業実施に際しては変更の可能性があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

特になし

#### 成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

#### 実務経験

講義プログラムの中に、実務者が実務経験に基づいて講義をする時間が含まれています。

#### その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・学生の費用負担があります。飲食費で5千円程度の予定です。

講義科目 : 次世代産業実践	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の将来的な主要産業に成長する可能性を持つ、「次世代産業」に注目し、グループワーク、ディスカッション、現地見学・実証実験を通じて、課題発見及び社会協働を学びます。
- ・本授業においては、航空宇宙産業をテーマに扱うが工学的な内容に限定せず、素材化学や生物資源活用、それらを地域産業という観点からいかに活かしていくかの視野を広げるとともに、他分野に対する関心や様々な専門性を他者と議論することで、新しい価値を生み出す考え方や産業構造を刷新していく社会人としての基礎的素養を身につけることを目的としています。
- ・本科目では合宿講義（2泊3日）を通じて、3～5人のグループワークで地域課題（次世代産業）を発見し、討論によりそれぞれの専門性を発揮して最終的な結論を発表するところまで行います。

#### 授業計画

##### ○事前学習

1 2月14日（土）13：00～17：00

三重大学において事前学習、事前レポートなど

##### ○現地学習（合宿、2泊3日：2月18日～20日、宿泊場所：三重県立鈴鹿少年センター）

1日目 オリエンテーション、講義、グループワークなど

2日目 講義、実習、グループワーク、ワークショップなど

3日目 三重樹脂（鈴鹿市）、航空機部品生産協同組合（松阪市）、ユークレナ藻類エネルギー研究所（多気町）の見学など

##### ○事後学習

3月6日（金）13：00～16：00

三重大学において「次世代産業に対する提言」、事後レポート

予習：座学・自主調査（文献・Web）・事前レポートの提出

復習：事後レポートの提出

#### 教材・テキスト・参考文献等

特になし

#### 成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

#### その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・本講義を2年生が受講する場合、単位が出ても卒業に間に合いません。そのため履修を1年生に限らせていただきます。
- ・学生の費用負担があります。食費等で0.5～1万円を想定しています。

講義科目 : 医療・健康・福祉実践	単位数 : 2
マークシート略 : [ - ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・この講義科目は、三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生とともに参加することになります。
- ・三重県の重要課題である医療・健康・福祉に対して、主に僻地（離島）医療の観点から現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行います。
- ・三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探求する。本科目の特徴は合宿型（2泊3日）だという点です。3～5人のグループワークを通して地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することを目標とします。
- ・地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮することができます。

#### 授業計画

##### ○事前学習

6月29日（土）10：00～17：00

三重大学において事前学習、地域住民インタビューのやり方

##### ○現地学習（合宿、2泊3日：9月3日～5日）

1日目 志摩市においてフィールドワーク、講義など

2日目 離島フィールドワーク、グループワーク（取りまとめ）など

3日目 離島フィールドワークなど

##### ○事後学習

9月13日（金）13：00～16：00

三重大学においてグループワーク（取りまとめ）、成果報告会

##### ○事後レポート（9月末まで）

※諸事情により実際の授業実施に際しては変更の可能性があります。

#### 教材・テキスト・参考文献等

特になし

#### 成績評価方法

授業や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%

#### 実務経験

講義プログラムの中に、実務者が実務経験に基づいて講義をする時間が含まれています。

#### その他

- ・履修希望者が定員を超えた場合は抽選で履修者を決定します。また、履修希望者は授業計画の全日程に参加することを前提として履修申告してください。
- ・学生の費用負担があります。飲食費で5千円程度の予定です。

講義科目 : 日本国憲法	単位数 : 4
マークシート略 : [日本憲法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鎌塚 有貴	

#### 講義の内容・方法および到達目標

講義形式で行う。

日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察すること。

#### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	選挙制度
第2回	国家と憲法	第17回	選挙権
第3回	基本的人権	第18回	国会の権能
第4回	外国人の人権と人権の国際化	第19回	国会の活動
第5回	私人間における人権保障	第20回	国政調査権
第6回	法の下での平等	第21回	行政権
第7回	思想・良心の自由	第22回	議院内閣制
第8回	信教の自由	第23回	司法権
第9回	表現の自由(1)	第24回	裁判所の組織
第10回	表現の自由(2)	第25回	司法権の独立
第11回	経済活動の自由	第26回	違憲審査制
第12回	社会権1:生存権	第27回	財政
第13回	社会権2:教育権	第28回	地方自治
第14回	社会権3:労働憲基本権	第29回	憲法改正
第15回	人権分野まとめ	第30回	統治分野まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

芦部信喜『憲法〔第6版〕』（岩波書店、2015年）

加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第2版〕』（啓文堂、2018年）

#### 成績評価方法

試験2回（各50点）の総合点による。

#### その他

授業計画については、進行具合によって変更する場合があります。

講義科目 : 民法 I	単位数 : 4
マークシート略 : [民法 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川上 生馬	

### 講義の内容・方法および到達目標

コンビニでの買い物、マイホーム購入のためのローン、下宿先を借りる、結婚するなど、様々な場面で民法は登場してくる重要な法律です。本講義では、その中でも最も基本的なルールを定めている「民法総則」と所有権など物に関するルールが定められている「物権」について学習します。

これら民法の規定は、民法を理解するうえでも非常に重要な内容となっていますので、基本概念をしっかりと理解してもらいます。さらに、本講義では具体的な事例を多く取り上げ、どのような場面において民法を活用するのかわせて学習してもらうことで、法的思考能力のトレーニングも行います。

### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	時効①時効とは
2回	権利能力・行為能力	17回	時効②時効の援用・放棄
3回	法律行為概論	18回	時効③取得時効
4回	法律行為①意思表示とは	19回	時効④消滅時効
5回	法律行為②心裡留保	20回	物権とは
6回	法律行為③虚偽表示	21回	所有権・占有権
7回	法律行為④錯誤	22回	地上権・地役権
8回	法律行為⑤詐欺・強迫	23回	その他の用益物権
9回	無効と取消し	24回	担保物権とは
10回	代理①代理とは	25回	留置権
11回	代理②表見代理	26回	抵当権
12回	代理③表見代理	27回	その他の担保物権
13回	代理④無権代理	28回	総復習①
14回	条件・期限	29回	総復習②
15回	前半講義内容まとめ	30回	講義内容まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：『コンパクト民法 I』角紀代恵（新世社、2018年）

講義はレジュメを中心に行う。

教科書については、予習・復習の際に使用する。

### 成績評価方法

前半講義内容まとめ（第15回）の中で小テスト、講義内容まとめ（第30回）の中で試験を行う。

成績評価は平常点15点、小テスト25点、試験60点の配分で行う。

### その他

講義には六法を持参すること。

講義中は私語厳禁とする。

講義科目 : 民法Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 :〔民法Ⅱ〕	学習形態 : 選択科目
担当 : 木村 義和	

#### 講義の内容・方法および到達目標

講義の内容・方法：「債権」という言葉を聞くと、何だか難しく思えてしまいますが、債権法で扱う分野は、民法の中でも非常に面白い分野です。「借金の保証人になったらどうなるの?」とか、「商品を売った相手が代金を支払ってくれない。どうすることができる?」など、自分が将来ひょっとしたら同じ場面に遭うかと思えるような話がたくさん出てきます。このように債権法には民法の財産法の中心となるルールがたくさん規定されています。本講義では、債権総論の重要な制度を重点的に解説します。

到達目標：債権法の重要な制度を理解して基礎知識が修得できる。

#### 授業計画

- 第1回 債権の目的
- 第2回 債権の種類
- 第3回 債務不履行とは何か
- 第4回 債務不履行責任の内容
- 第5回 履行の強制
- 第6回 損害賠償
- 第7回 債権者代位権
- 第8回 詐害行為取消権
- 第9回 可分債権・不可分債権
- 第10回 連帯債務
- 第11回 保証債務
- 第12回 特殊な保証
- 第13回 債権譲渡
- 第14回 債務引受
- 第15回 弁済と相殺

#### 教材・テキスト・参考文献等

毎回レジュメを配布する。

テキスト：松岡久和・山田 希・田中洋・福田健太郎、多治川卓朗『新プレミアム民法3 債権総論』（法律文化社）

#### 成績評価方法

各回に行う小テスト60%+試験40%で評価する。

#### その他

熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。

講義科目 : 家族法	単位数 : 4
マークシート略 : [家族法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木村 那津子	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

家族に関する法制度について基本的な知識を修得することを目的としている。家族法をはじめ、現代の日本社会が直面する法的な問題等具体的な事例を挙げながら進めていく。

#### 授業計画

- 第1回 家族法の意義、概要
- 第2回 家族法改正の主要論点とこれまでの経緯
- 第3回 婚姻の成立要件、婚姻障害（婚姻適齢、再婚禁止期間）
- 第4回 婚姻の成果、夫婦の氏と子の氏／戸籍制度
- 第5回 離婚－協議離婚と裁判離婚
- 第6回 離婚－離婚と子ども 養育費確保、面会勾留 ハーグ条約
- 第7回 親子法－親子関係の成立と成果、婚外子差別
- 第8回 生殖補助医療と親子関係 血縁と法的親子関係
- 第9回 養子制度
- 第10回 特別養子制度 里親制度
- 第11回 親権 後見 扶養
- 第12回 相続法1 相続人の範囲と順位、法定相続分
- 第13回 相続法1 特別受益と寄与分／相続の承認と法規、欠格と排除
- 第14回 遺言制度 遺言の種類、様式、効力
- 第15回 相続・遺言の実際と問題点 相続と登記 相続税 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

床谷文雄他著「新プリメール民法5 家族法」（最新版）法律文化社

#### 成績評価方法

試験またはレポートによる評価の予定。  
出席40%、筆記試験またはレポート60%

#### 実務経験

三重県弁護士会に弁護士登録

#### その他

家族に関する時事トピックス（新聞記事・資料等）に日頃から関心を持ち、動向を注視するなど問題意識をもってほしい

講義科目 : 商法 I	単位数 : 4
マークシート略 : [商法 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 名島 利喜	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 会社の組織と行動に関する基本ルールを定める会社法全般について概説を行なう。会社、とりわけ株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。
- ・ 会社法は制度論であるといえる。そこで、何のために、どのような制度ができてきているか、その内容と意義を的確に理解できるようにする。そのうえで、会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを知ること目標にする。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	株式会社の機関構造
第2回	会社法と会社	第17回	株主総会の権限
第3回	会社の実態と法律上の定義	第18回	株主総会の招集・運営
第4回	会社の権利能力	第19回	株主総会決議の瑕疵
第5回	会社の法人性	第20回	取締役
第6回	資本制度	第21回	取締役会
第7回	株式制度	第22回	代表取締役
第8回	株式会社の設立①	第23回	取締役の義務と報酬
第9回	株式会社の設立②	第24回	取締役の責任
第10回	株式譲渡自由の原則	第25回	株主代表訴訟
第11回	株式の公開	第26回	監査役・監査役会
第12回	株式譲渡の制限	第27回	会計監査人
第13回	自己株式の取得	第28回	会社の資金調達
第14回	親子会社関係	第29回	組織再編行為
第15回	前期学習内容のまとめ	第30回	後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

教材：最新版の六法（小型のものでよい）  
 テキスト：特に指定しない（講義中に紹介する）

#### 成績評価方法

- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に筆記試験を行なう。
- ・ 成績は主に後期試験によって評価する。
- ・ 出席10%、筆記試験90%

#### その他

- ・ 毎回の講義を欠かさず聞くことを大事にしてほしい。
- ・ 株式会社法の制度的側面ばかりではなく、日本経済新聞等に目を通したりして、わが国の会社経営の実状についても視野を広めてほしい。

講義科目 : 刑法	単位数 : 4
マークシート略 : [刑法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 楠本 孝	

### 講義の内容・方法および到達目標

刑法は、国家に刑罰権を付与する法であると同時に、国家刑罰権の限界を明確にすることによって、市民の権利を保障する法でもある。本講は、刑法の基本原則を理解し、それを踏まえて、マスコミ等でセンセーショナルに取り上げられる刑法現象を批判的に論評する目を養うことを目的とする。

近代刑法は、アンシャン・レジームの過酷な刑罰制度を克服するため、国家の刑罰権を抑制し、市民の人権を保障する諸原則を発達させてきた。ところが現代刑法は、この近代刑法の諸原則を修正して「現代社会のニーズ」に合わせる動きを見せている。この近代刑法原則の現代的変容とはどのようなもので、それは我々の社会にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。

### 授業計画

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 刑法と刑法学       | 2 刑罰論①         |
| 3 刑罰論②         | 4 犯罪論の基本原則     |
| 5 罪刑法定主義①      | 6 罪刑法定主義②      |
| 7 罪刑法定主義③      | 8 罪刑法定主義④      |
| 9 犯罪の定義と犯罪論の体系 | 10 行為と構成要件     |
| 11 故意          | 12 過失          |
| 13 錯誤          | 14 結果的加重犯      |
| 15 因果関係論       | 16 不作為犯        |
| 17 違法阻却事由      | 18 可罰的違法性      |
| 19 被害者の承諾／安楽死  | 20 正当防衛と緊急避難   |
| 21 正当防衛の不処罰根拠  | 22 緊急避難の不処罰根拠  |
| 23 責任／期待可能性    | 24 違法性の意識の可能性  |
| 25 責任能力        | 26 原因において自由な行為 |
| 27 未遂①－実行の着手   | 28 未遂②－不能犯／中止犯 |
| 29 共犯①－共犯の従属性  | 30 共犯②－共謀共同正犯  |

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：教科書は特に指定しない。ただし、六法は必携。

参考書として楠本孝『刑法解釈の方法と実践』（現代人文社）

また、毎回資料を配布するので、その整理を怠らないこと。

### 成績評価方法

最後の講義日に試験をし、その成績をベースに判断するが、小レポート（2回程度）の内容を加味して判断する。試験の成績80%、小レポート20%。レポートを提出しても、内容の無いものは評価しない。

再試験は行わない。

講義科目 : 行政法	単位数 : 4
マークシート略 : [行政法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤枝 律子	

#### 講義の内容・方法および到達目標

社会保障、道路交通、ガス・水道・電気などの生活手段の整備や運営・管理にとどまらず、環境保全、消費者保護など様々な分野における公共的な仕事が、国や地方公共団体によって担われている。現代社会に生きる我々にとって、行政は不可欠な存在である。しかしながら、一方では、「官から民へ」と民間化が進行しており、改めて行政の役割とは何かが問われるようになってきている。本講義では、こうした現代的状況を視野に入れつつ、多くの判例を取り上げて、行政救済の視点から行政法を考えていきたい。そして、制度変化の中にある行政法について、基本的な原理や仕組みについて理解を深め、法的思考を身につけることを目標とする。

#### 授業計画

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1. 現代行政と行政法      | 16. 行政事件訴訟法とは         |
| 2. 行政法の概念        | 17. 法律上の争訟            |
| 3. 法治主義          | 18. 取消訴訟とは            |
| 4. 行政法の法源        | 19. 処分性-行政行為・行政準則     |
| 5. 行政法の諸原則       | 20. 処分性-行政計画・行政指導     |
| 6. 行政救済とは        | 21. 原告適格①             |
| 7. 国家賠償法の概念      | 22. 原告適格②             |
| 8. 国家賠償法1条の要件①   | 23. 客観的訴えの利益          |
| 9. 国家賠償法1条の要件②   | 24. 無効等確認訴訟・不作為の違法確認・ |
| 10. 国家賠償法2条①     | 25. 義務づけ訴訟・差止訴訟       |
| 11. 国家賠償法2条②     | 26. 当事者訴訟             |
| 12. 国家賠償法2条と水害訴訟 | 27. 仮の救済①             |
| 13. 損失補償の概念      | 28. 仮の救済②             |
| 14. 損失補償の要否      | 29. まとめと確認①           |
| 15. 結果責任に基づく国家補償 | 30. まとめと確認②           |

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書、参考文献等は、初回講義時に提示をする。
- ・講義時に、レジュメ、資料を配布する。
- ・『ポケット六法』等コンパクトなものでよいので六法を持ってくること。

#### 成績評価方法

記述式の確認テスト70%、および平常点30%で評価する。

講義科目 : 労働法	単位数 : 4
マークシート略 : [労働法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

### 講義の内容・方法および到達目標

近年、「ワーキング・プア」「長時間労働による過労死・過労自殺」「パワハラ・セクハラ」など労働問題が社会の注目を集めています。厳しい労働状況の中、学生諸君は働くことを余儀なくされています。しかし、働く労働者に対してまっとうな労働条件を保障することは国・企業の義務・責任です。戦後の日本社会は、憲法で「個人の尊重・幸福追求の権利」(憲法13条)を謳い、さらに「人間らしい生活を営む権利」(憲法25条1項)を保障しました。労働法はこれらの憲法の規定を受け、労働者が働く時に守られるべきルール(憲法27条2項)を定めました。労働法を勉強することは、働くときに人間らしい生活を送るための力となります。本講義は、労働法の基本的仕組みを解説し、必要となる知識と、法的な解決方法を身につけることを目指します。

### 授業計画

第1回	労働法の仕組みと履行確保	第16回	健康・安全衛生
2回	雇用の成立①労働者・使用者とは誰か	17回	労働災害への補償
3回	雇用の成立②採用過程	18回	非正規労働①有期契約
4回	労働契約の権利義務	19回	非正規労働②パート労働
5回	懲戒制度	20回	非正規労働③派遣労働
6回	労働条件の決定①労使対等決定原則	21回	雇用確保策と職業能力形成
7回	労働条件の決定②就業規則	22回	労働組合
8回	労働条件の変更①合意変更	23回	組合活動
9回	労働条件の変更②就業規則	24回	不当労働行為①意義
10回	雇用の終了	25回	不当労働行為②救済
11回	賃金	26回	団体交渉
12回	労働時間規制と休息①	27回	労働協約
13回	労働時間規制と休息②	28回	争議行為
14回	職業生活と私生活保障	29回	労働法の課題
15回	雇用差別の禁止	30回	講義のまとめ(試験)

### 教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

### 成績評価方法

平常点20%(リアクションペーパーを用いて、2・3の課題を示すので、それに回答を記入する。質問や感想、復習なども記入し、次週以降に講師から回答を行う。)、試験80%

講義科目 : 国際法	単位数 : 4
マークシート略 : [国際法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 濱田 早絵	

#### 講義の内容・方法および到達目標

国際社会における法は、国内社会における法とは異なっており、今日の国際社会を理解する上で国際法は重要なものです。本講義では、国際法のもつ、国家間を規律する側面だけでなく、近年発展している人権や環境といった様々な分野についても学びます。

本講義は、主にレジュメを用いた講義形式で行います。また、毎回小テストを実施し、期末試験の練習問題を授業中に一度行う予定です。これらを通じて、国際法の基礎知識を理解することと国際法的視点を身に付けることを目指します。

#### 授業計画

第1回	国際社会と国際法
第2回	国家と国際法
第3回	国家機関
第4回	国際法の存立形態
第5回	条約法
第6回	国際法と国内法
第7回	国際法上の責任
第8回	陸の国際法
第9回	海の国際法
第10回	国際化地域
第11回	人と国際法
第12回	国際経済法・国際環境法
第13回	紛争の平和的解決
第14回	武力紛争・軍備管理の国際法
第15回	まとめ・期末試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は指定しません。

授業中は、適宜、下記テキストを参照しながら進めていきます。

<テキスト>

芹田健太郎代表編『コンパクト学習条約集【第2版】』（信山社、2014年）

#### 成績評価方法

期末試験（50％）、平常点（50％）。

平常点は、出席、小テストで評価します。

講義科目 : 法哲学	単位数 : 4
マークシート略 : [法哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小林 和之	

#### 講義の内容・方法および到達目標

事例について詳細に説明した後、レポートを課し、翌週に論点を解説して講評を行なう。それにより、具体的な問題に即して何が「正しい」かを考える力を養うことを目標とする。

#### 授業計画

- 第1回 氏名の公共性
- 第2回 氏名制度と婚姻
- 第3回 婚姻制度の現代的意義
- 第4回 責任制度の近代と現代
- 第5回 責任制度の現代と未来
- 第6回 事実と社会：刑事
- 第7回 事実と社会：民事
- 第8回 組織と個人(1)
- 第9回 組織と個人(2)
- 第10回 リスクと法(1)
- 第11回 リスクと法(2)
- 第12回 規範と事実
- 第13回 「正しさ」
- 第14回 民主主義
- 第15回 試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

なし

#### 成績評価方法

授業時間中に書いたレポートと筆記試験の結果を総合評価する。

講義科目	: 税法	単位数	: 2
マークシート略	: [税法]	学習形態	: 選択科目
担当	: 今井 富久翁	実務経験	: 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ①税金とはどういうもので、税金はなぜ必要なのか？といった「税金」の意義について解説し、税に関する知識の習得と理解を深めることを目標とします。
- ②わが国の租税制度（＝申告納税制度）が円滑且つ民主的に運営されるために、国民の三大義務の一つである「納税義務」を理解し、税に関する関心を持ってもらえるように講義します。

#### 授業計画

- 第1回 租税とは？
- 第2回 租税法の原則
- 第3回 租税法の法源
- 第4回 租税法の解釈
- 第5回 所得税法①
- 第6回 所得税法②
- 第7回 法人税法①
- 第8回 法人税法②
- 第9回 消費税法①
- 第10回 消費税法②
- 第11回 相続税法
- 第12回 地方税法
- 第13回 国際課税
- 第14回 租税手続法
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義で使用する教材は、レジュメを作成します。

参考文献として、

「租税法」：金子 宏：弘文堂

「税法」法律学全集5：清永 敬次：ミネルヴァ書房

「税金の実務教室」：森下 幹夫：大蔵財務協会

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は、出席状況や受講態度などを考慮します。

#### 実務経験

昭和58年8月に税理士事務所を開設。所得税・法人税・消費税・相続税を中心とした実務経験に基づいた具体例を参考に、理解しやすい言葉で講義します。

講義科目 : 消費者法	単位数 : 2
マーケット略 : [消費者法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村田 雄介	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・「消費者」問題が、民法を中心とする一般の法理論によってどのように捉えられているのか、そこには、どのような問題・限界が存在するのかを理解すること。
- ・「消費者」問題が、「消費者法」によってどのように規律されようとしているのか、そこには、どのような基本的考え方があるのかを理解し、「消費者」及び「消費者法」の法的な意義を明らかにすること。
- ・個々の法律や条文の解釈というよりも、「生きた消費者法」と「消費者法の基本原理」を学ぶこと。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス、「消費者法」とは何か
- 第2回 全法体系の中の「消費者法」の位置づけ
- 第3回 一般法としての「民法」と特別法としての「消費者法」
- 第4回 「民法」概説
- 第5回 消費者契約① 契約理論
- 第6回 消費者契約② 意思表示
- 第7回 消費者契約③ 契約の拘束力からの解放
- 第8回 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅰ
- 第9回 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅱ
- 第10回 消費者法② 割賦販売法Ⅰ
- 第11回 消費者法② 割賦販売法Ⅱ
- 第12回 消費者法③ 消費者信用
- 第13回 消費者法④ 消費者契約法
- 第14回 消費者法⑤ 製造物責任法
- 第15回 消費者法⑥ 独占禁止法

#### 教材・テキスト・参考文献等

レジュメに基づいて講義をする。一般的な文献及び六法については初回の授業で、その他の重要な文献については各回の授業で適宜紹介する。

#### 成績評価方法

授業内に行う筆記試験（あるいはレポート）で評価する。

全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象外とする。

#### 実務経験

三重弁護士会に所属する弁護士。主に民事訴訟（消費者関係訴訟を含む。）を担当。勤務する弁護士事務所での実務経験をもとに、法理論及び判例、被害事例について話をします。

講義科目 : 政治学原論	単位数 : 4
マークシート略 : [政治原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長澤 高明	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現代政治を理解するための基礎知識・基礎概念および物事を考えるときの視角について講義する。私が一方的に喋るということはず、受講生と対話しながら講義を進める。時事問題を講義冒頭で取り上げて解説する。政治は苦手だという人も、この講義を受けてニュースが理解できるようになれば幸甚である。

#### 授業計画

テキストの目次に沿って解説する。テキストを補足する資料やプリントも配付する。講義は2コマ連続でおこなう。

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| 第1回 日本の政治文化         | 第16回 議会主義の歴史 (2) |
| 第2回 日本の新しい政治文化にむけて  | 第17回 議会制民主主義     |
| 第3回 メディアと政治         | 第18回 世界の選挙制度     |
| 第4回 私たちの認識枠組み       | 第19回 衆議院の選挙制度    |
| 第5回 アメリカに従属する日本 (1) | 第20回 参議院の選挙制度    |
| 第6回 アメリカに従属する日本 (2) | 第21回 投票分析        |
| 第7回 経済と政治の関係 (1)    | 第22回 政党とはなにか     |
| 第8回 経済と政治の関係 (2)    | 第23回 日本の主要政党 (1) |
| 第9回 戦後内閣史 (1)       | 第24回 日本の主要政党 (2) |
| 第10回 戦後内閣史 (2)      | 第25回 戦後政党史 (1)   |
| 第11回 戦後内閣史 (3)      | 第26回 戦後政党史 (2)   |
| 第12回 統治と正当性         | 第27回 市民運動とは何か    |
| 第13回 国家とは何か (1)     | 第28回 住民運動と社会運動   |
| 第14回 国家とは何か (2)     | 第29回 政治と宗教       |
| 第15回 議会主義の歴史 (1)    | 第30回 身の回りの民主主義   |

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは長澤高明『入門 現代日本の政治』（学習の友社）。参考文献はその都度指示する。

#### 成績評価方法

毎回出席をとる。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合は成績評価の対象としない。成績は「出席状況 (30%) + 小テスト2回 (20%) + レポート (3000字。50%)」の総合評価とする。

#### その他

新聞の政治欄や用語辞典を読む習慣をつけてほしい。

講義科目 : 行政学	単位数 : 4
マークシート略 : [行政学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 立石 芳夫	

### 講義の内容・方法および到達目標

本講義は、国＝中央政府を軸とする政治行政制度について取り扱う。日本の制度を主対象としながらも、部分的には主要先進各国の制度についても言及していく。政治行政制度のあり方は、政策を通じてよかれ悪しかれ市民生活に大きな影響を及ぼす。講義は教科書と（その内容を補足する）レジュメに沿って進める。講義の中心テーマは、民主主義的な理念に照らした政治行政制度はどうあるべきか、に設定したい。

### 授業計画

第1回	講義の概要および序	第16回	戦前日本の政治行政制度
第2回	序	第17回	占領期の政治制度改革
第3回	市民革命と近代国家の成立	第18回	議院内閣制における議会
第4回	近代国家から現代国家へ	第19回	議院内閣制における内閣
第5回	福祉国家とは何か	第20回	府省庁の設置とその仕組み
第6回	福祉国家の形成	第21回	中央省庁等の再編
第7回	福祉国家の発展	第22回	中央省庁等再編の帰結
第8回	福祉国家の危機・再編	第23回	戦前の官吏制度
第9回	福祉国家の現状と今後	第24回	国民主権のもとでの公務員
第10回	近代的公務員制度の確立	第25回	人事院
第11回	近代官僚制とは何か	第26回	公務員の服務など
第12回	官僚制の形式的合理性	第27回	公務員制度改革
第13回	官僚制の実質的非合理性	第28回	政策の形成過程
第14回	行政国家とその問題性	第29回	予算の編成過程
第15回	行政国家を超えて	第30回	講義のまとめ（試験）

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

### 成績評価方法

試験で評価する。出欠は毎回とる。出席率が3分の2を下回る受講生は評価対象外とするので、留意していただきたい。

### その他

政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。

本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

講義科目 : 地方政治論	単位数 : 4
マークシート略 : [地方政治]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岡田 一郎	

### 講義の内容・方法および到達目標

・げんざい、強いリーダーシップを実現するために統治機構を改革するという議論が盛んである。一方、住民が直接参加する取り組みも様々なところで進んでいる。上からのリーダーシップと下からの参加はどのように折り合いが付けられるのか、ガバナンスという概念をキーに考察していきたい。

### 授業計画

第1回 地方政治論の対象と方法	第9回 住民投票と討議制民主主義
第2回 新自由主義とポスト福祉国家	第10回 中央地方関係の変化
第3回 労働、社会保障	第11回 ローカル・ガバナンス
第4回 地方分権	第12回 討議制民主主義演習（1）
第5回 大都市制度	第13回 討議制民主主義演習（2）
第6回 産業振興	第14回 資本蓄積と地方政治
第7回 広域行政	第15回 まとめと確認
第8回 コミュニティー活動	

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・テキスト：『ローカル・ガバナンスとデモクラシー』（法律文化社、2016年）
- ・参考文献は講義中に適宜紹介する。

### 成績評価方法

- ・数週に一度、講義内容の区切りのところで小テストを実施する。
- ・後期試験は自筆ノートと講義で配布したプリントのみ持ち込み可とする。
- ・評価は小テストを40%、期末レポートを60%の割合で判定する。

### その他

行政学、政治学、財政学など関連分野を併せて受講することを推奨します。グループで討論し、結果を報告する機会を作る予定です。能動的な姿勢で参加されることを期待しています。

講義科目	: 社会福祉論	単位数	: 2
マークシート略	: [社会福祉]	学習形態	: 選択科目
担当	: 脇田 愉司	実務経験	: 有

### 講義の内容・方法および到達目標

「社会福祉原論」（講師作製の私家版）をテキストにして、社会福祉の根本の考え方や各制度領域における現実の生活・暮らしにつながる全体像を読み込む。利己心や利他心など人間の生命の本性、社会福祉思想のルーツ（原型）や歴史的展開を幅広い視点・次元から題材を用意する。そのうえで、現在の社会福祉全般の問題課題を読み解く力量を身につけることを目標とする。

### 授業計画

基本的には、次のようなテーマを設定しながら、講義を進めていく。

- 第1回 オリエンテーション、「福祉とは、学ぶとは」「福祉を学ぶとは」
- 第2回 「人間の生命の3つの本性」「ささえあいの人間学」
- 第3回 「現代の姥捨山問題」、「檜山節考」を考える
- 第4回 「福祉国家、社会保障、社会福祉とは」「社会福祉とニード」
- 第5回 「社会福祉の思想のルーツ（原型）と原理—世界の歴史的展開」
- 第6回 「日本の社会福祉の歴史」野本三吉著『社会福祉事業の歴史』から
- 第7回 「老いと生い（おい）—介護保険の光と陰」「認知症を生きる」
- 第8回 「障害、障害者とは何か」、「障害学」とは何か
- 第9回 「貧困・不平等・社会福祉—生活保護の現場から考える」
- 第10回 「風になれ！子どもたち—児童福祉の風景」、児童虐待とは
- 第11回 「地域福祉とコミュニティー共同性のかなたへ」
- 第12回 「地域福祉の創造—ボランティアとNPO活動」
- 第13回 「社会福祉の目指すもの～ノーマリゼーション思想と共生の思想」
- 第14回 「現代社会のゆくえ—魂に触れる福祉の世界」
- 第15回 まとめと確認（レポート等）

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は「社会福祉原論」講義ノート（私家版）。随時、資料を配布する。

参考書は次のとおり。

『社会福祉事業の歴史』 野本三吉著 明石書店 1998年

### 成績評価方法

出席、レポートなどにより、総合的に評価する。概ね、出席30%、レポート70%の配分。出席を重視し、原則として、5回以上の欠席は評価外。

毎回、講義終了後に、講義の感想等のアンケートを徴取する。

### 実務経験

福祉事務所での福祉六法実務経験（査察指導を含む）、社会福祉法人の指導監査を担当する県行政に勤務してきました。また、その後の社会福祉法人の監事、施設職員に対するキャリアパス研修課程の講師等の実務経験を活かし、社会福祉現場の理解促進に努めます。

### その他

ひとは何故他者を助けたりするのか、そもそもどうしてひとは他人を支えたりしようとするのか。「福祉を哲学する」ことをベースに、福祉の「内的衝動」を探っていく中で、生きることや学ぶ意味、「生命（いのち）はいのちでしか語れないこと」（いのち論）などを共に考えていきたい。また、「覚える」ことに止まらない、なぜなのかという「考える」ことを重視していきたい。

講義科目 : 地域政策論	単位数 : 2
マーケット略 : [地域政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

#### 講義の内容・方法および到達目標

農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こす。本講義では、「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について考察していく。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに一生物多様性と第一次産業／三重県の第一次産業の概況
- 第2回 第一次産業と外来生物問題①
- 第3回 第一次産業と外来生物問題②
- 第4回 獣害問題とは何か①
- 第5回 獣害問題とは何か②
- 第6回 林業を考える①
- 第7回 林業を考える②
- 第8回 農業とは何か①
- 第9回 農業とは何か②
- 第10回 日本の食料政策と食料自給率
- 第11回 遺伝子組み換えについて
- 第12回 日本の水産業の現状について
- 第13回 乱獲問題について①
- 第14回 乱獲問題について②
- 第15回 試験およびまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義のなかで、適宜指示する。

#### 成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 : 環境政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有 哲	

#### 講義の内容・方法および到達目標

21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは、おそらく不十分であり、主権者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義においては、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 環境問題とは何か
- 第3回 環境破壊の人類史①
- 第4回 環境破壊の人類史②
- 第5回 工業化について
- 第6回 グローバル市場経済の仕組み①
- 第7回 グローバル市場経済の仕組み②
- 第8回 市場経済と国家
- 第9回 南北格差の歴史と現状①
- 第10回 南北格差の歴史と現状②
- 第11回 気候政策の国際的展開①
- 第12回 気候政策の国際的展開②
- 第13回 日本における気候政策①
- 第14回 日本における気候政策②
- 第15回 試験とまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中適宜指示する。

#### 成績評価方法

- ・ 毎回小レポート…50%
- ・ 試験…50%

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
マークシート略 : [統計学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

統計学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。現代の社会では様々な統計データの公表が進んでいますが、それをどのように理解すればよいかを学ぶことが目標です。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 度数分布表とヒストグラム
- 第3回 平均・中央値・最頻値
- 第4回 分散と共分散
- 第5回 最小二乗法
- 第6回 確率の考え方(1)
- 第7回 確率の考え方(2)
- 第8回 確率分布表の読み方
- 第9回 推定の考え方
- 第10回 点推定
- 第11回 区間推定
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 検定の手法
- 第14回 社会に存在する統計データ
- 第15回 テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

毎回資料を配布します

参考文献

馬場敬之『統計学キャンパス・ゼミ 第5版』マセマ出版社

#### 成績評価方法

出席点 : 30%

期末テスト : 70%

講義科目 : 経済原論	単位数 : 4
マーケット略 : [経済原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

### 講義の内容・方法および到達目標

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱い経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在しています。この講義では第2回から第16回においてミクロ経済学、第17回から第29回でマクロ経済学を取り扱います。この講義を通じて経済学の基本的な考え方を身につけることを目標とします。

### 授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	独占企業の行動
第2回	経済学の全体像 - 様々な考え方	第17回	マクロ経済学の基本像
第3回	ミクロ経済学の基本像	第18回	財市場の分析(1)
第4回	消費者の理論(1)	第19回	財市場の分析(2)
第5回	消費者の理論(2)	第20回	財市場の分析(3)
第6回	消費者の理論(3)	第21回	財市場の分析(4)
第7回	労働供給の決定	第22回	資産市場の分析(1)
第8回	企業の生産量決定(1)	第23回	資産市場の分析(2)
第9回	企業の生産量決定(2)	第24回	資産市場の分析(3)
第10回	企業の生産量決定(3)	第25回	資産市場の分析(4)
第11回	完全競争市場均衡(1)	第26回	IS-LM分析(1)
第12回	完全競争市場均衡(2)	第27回	IS-LM分析(2)
第13回	余剰分析(1)	第28回	IS-LM分析(3)
第14回	余剰分析(2)	第29回	経済成長の源泉
第15回	外部経済	第30回	まとめおよびテスト

### 教材・テキスト・参考文献等

#### テキスト

石川秀樹(著) 中央経済社

『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』

『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』

このほか、資料を配布します

### 成績評価方法

出席点 : 30%

期末テスト : 70%

講義科目 : 経済史	単位数 : 4
マークシート略 : [経済史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 茂木 陽一	

#### 講義の内容・方法および到達目標

●本年度講義では、世界と日本の人口変動と貨幣・物価変動を軸にした経済発展について講じます。その上で、近代日本の経済発展を戦争・植民地支配と短・中・長期の経済変動、とりわけ世界恐慌＝昭和恐慌との関連で概観し、近代日本のアポリア（難問）に対する一定の解答を示します。

#### 授業計画

第1回	経済史とは何か？	第16回	貨幣の誕生
2回	人口史の方法	17回	江戸期の三貨制度
3回	人類の誕生と農耕革命	18回	藩札と私札
4回	前近代の人口と経済	19回	文政期インフレ成長仮説
5回	価格革命と産業革命	20回	近代幣制の成立
6回	近代経済成長と人口増加	21回	「円」の誕生
7回	人口転換と近代家族	22回	銀行システムの成立と産業革命
8回	人口波動と日本の歴史	23回	金本位制と三環節構造
9回	経済社会化と第三の波動	24回	恐慌と金本位制度の動揺
10回	近代日本の経済成長と第四の波動	25回	総力戦体制と管理通貨制度
11回	人口減少社会と経済変動	26回	敗戦と戦後復興
12回	少子高齢化と第二人口転換	27回	高度経済成長
13回	近代家族の解体	28回	近代日本の戦争・軍隊・植民地
14回	途上国の人口問題	29回	戦争と経済発展
15回	まとめと確認－中間試験	30回	まとめと確認－期末試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 講義の際に資料とレジュメを配布し、それにしたがって講義を進めます。
- 適宜講義録を配布します。復習のための資料ですが、配付資料とこの講義録を合わせると、テキストになります。
- 講義の参考になる文献として以下のものを挙げておきます。  
G. クラーク『10万年の世界経済史』上・下（日経BP社）、鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』（講談社学術文庫）

#### 成績評価方法

- 評価は小レポート①～⑥（各5点、合計30点）、中間試験（35点）、期末試験（35点）の合計で行います。合計が60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とします。また1/3以上欠席した者は無資格とします。出席点はありません。

#### その他

- 毎回出席カードを配付します。質問・要望のある人はカードに書いて下さい。どんな質問でもなるべく丁寧に回答します。
- 正当な理由がある場合以外の遅刻・早退は認めません。私語をやめなかったり、居眠りをしたりする者には退室してもらうことがあります。

講義科目 : 経済政策	単位数 : 4
マークシート略 : [経済政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森岡 洋	

#### 講義の内容・方法および到達目標

①資本主義経済の特徴は市場経済で運営されていることと私有財産制度が存在することである。この資本主義経済ではどのような解決すべき課題が存在するのか、完全雇用と景気調整の安定化政策および分配政策という解決すべき課題を中心に経済政策について述べる。

②また、経済学の観点から経済政策を考える場合、経済的厚生という概念を使う。この概念を式で示したものに社会的厚生関数があり、このことについても述べる。

#### 授業計画

第1回 資本主義経済と私有財産制度	第16回 前期学習内容のまとめ
第2回 資本主義経済と市場経済	第17回 ケインズ経済学の体系
第3回 資本主義経済の長所	第18回 古典派経済学の労働市場
第4回 短所と経済政策の必要性	第19回 ケインズ経済学の労働市場
第5回 経済政策の形態	第20回 ケインズ経済学の生産物市場
第6回 経済政策の主体、目的、手段	第21回 生産物市場での消費と投資
第7回 経済的厚生について	第22回 生産物市場と景気循環
第8回 ピグーの三命題	第23回 貨幣市場での貨幣供給
第9回 バーグソンの社会的厚生関数	第24回 貨幣市場での貨幣需要
第10回 最適な経済政策とは	第25回 貨幣市場での利子率の決定
第11回 経済発展と所得分配	第26回 ケインズ経済学の金融政策
第12回 ローレンツ曲線とジニー係数	第27回 金融政策の限界
第13回 日本経済での所得格差の拡大	第28回 ケインズ経済学の財政政策
第14回 ピグーの所得分配論	第29回 財政政策の問題点
第15回 格差解消の経済政策	第30回 後期学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に講義内容に沿ったプリントを配布する。

#### 成績評価方法

講義は毎回出席をとる。講義には3分の2以上出席しなければならない。

講義が半分ほど経過したとき講義の前期のまとめの論述形式でのテストを行う。最終試験で講義の後半部分のまとめの論述形式でのテストを行う。

評価は、中間テスト45%、最終試験45%、出席等学習意欲で10%とする。

講義科目 : 金融論	単位数 : 4
マークシート略 : [金融論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	

### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 貨幣の役割や金融制度の仕組みを学び、金融に関する基礎知識や金融リテラシー（お金の知識・判断力）を身につけられるようにする。金融で上手に儲けるやり方を伝授するわけではない。
- ・ 金融に関する近年のトピックや最新の統計データを紹介しながら、日本と世界の金融動向や金融政策の特徴について理解が深まるように努める。学生が、それらの情報から現代社会の課題を発見し、事実に基づき分析し、課題解決に向けて考察する力を涵養することを本講義の目標とする。

### 授業計画

各テーマをそれぞれ2～3回の講義で説明していく予定である。

第1回	ガイダンス、貨幣の歴史①	第16回	日本の財政と国債②
第2回	貨幣の歴史②	第17回	短期金融市場①
第3回	商品と貨幣、貨幣の発生①	第18回	短期金融市場②
第4回	商品と貨幣、貨幣の発生②	第19回	長期金融市場①
第5回	貨幣の機能、通貨の発行①	第20回	長期金融市場②
第6回	貨幣の機能、通貨の発行②	第21回	日本銀行と金融政策①
第7回	資本循環、企業の資金調達①	第22回	日本銀行と金融政策②
第8回	資本循環、企業の資金調達②	第23回	日本銀行と金融政策③
第9回	日本の金融機関（前編）①	第24回	国際収支と外為市場①
第10回	日本の金融機関（前編）②	第25回	国際収支と外為市場②
第11回	日本の金融機関（後編）①	第26回	国際収支と外為市場③
第12回	日本の金融機関（後編）②	第27回	デリバティブ市場①
第13回	銀行融資と金利①	第28回	デリバティブ市場②
第14回	銀行融資と金利②	第29回	サブプライム危機①
第15回	日本の財政と国債①	第30回	サブプライム危機②

### 教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用しない。各テーマの最初の講義でレジュメを配付する。

### 成績評価方法

レポート提出による評価（70%）及び出席点（30%）にて成績評価を行う。  
レポート課題は最初の講義（ガイダンス）で発表する。

### その他

関連講義として「統計学」「経済原論」「経済政策」「簿記原理」「財政学」「商法Ⅱ」等の履修を推奨する。また、新聞を毎日読むように。

講義科目 : 財政学	単位数 : 4
マークシート略 : [財政学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大畑 智史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。

#### 授業計画

1	オリエンテーション	16	法人課税
2	財政学の歴史	17	法人課税
3	財政学の歴史	18	中間テスト
4	財政の範囲と規模	19	消費課税
5	財政の機能	20	消費課税
6	予算	21	資産課税
7	予算	22	資産課税
8	予算	23	国際課税
9	公共財	24	公債
10	公共財	25	公債
11	公共財	26	国と地方との財政関係
12	租税の基礎	27	国と地方との財政関係
13	租税の基礎	28	社会保障
14	所得課税	29	社会保障
15	所得課税	30	まとめ、最終テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。

池上惇『財政思想史』有斐閣、2002年

植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年

『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）

『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

#### 成績評価方法

中間テスト：20%

講義内容についての感想（複数回）：20%

最終テスト：60%

#### その他

- ・経済政策、地方財政論、などの科目も履修することをお勧めします。

講義科目 : 日本経済論	単位数 : 2
マーケット略 : [日本経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鷲尾 和紀	

#### 講義の内容・方法および到達目標

我が国の経済環境変化は我々にとって生活そのものを変化させている。今日家計や企業を取り巻く環境にはさまざまな課題が表出している。これらの課題を取り組むためにどう経済を読み解くのか事例を交えて解説していく。また新聞記事や各庁が発行する白書の内容が理解できるようになることを目標とする。

#### 授業内容

第1回	オリエンテーション
第2回	現代経済の仕組み
第3回	日本経済の姿・全体像
第4回	日本経済の歩み①～高度経済成長期
第5回	日本経済の歩み②～バブル経済
第6回	日本経済の歩み③～21世紀
第7回	日本経済の歩み④～次世代
第8回	企業活動①～企業とは何か、会社は誰のものか？
第9回	企業活動②～グローバル化、IT化
第10回	少子高齢化と社会保障制度
第11回	労働①～AI化に向けて
第12回	労働②～若年者、女性の就労、人生100年時代の人材育成
第13回	労働③～今日の諸問題－二極化、格差社会
第14回	経済と環境問題
第15回	まとめ、テスト

#### テキスト

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一『入門・日本経済 第5版』 有斐閣、2015年3月

#### 成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。

#### その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

講義科目 : 国際経済論	単位数 : 2
マークシート略 : [国際経済]	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 : 地方財政論	単位数 : 2
マークシート略 : [地方財政]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大畑 智史	

#### 講義の内容・方法および到達目標

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面で重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、特に日本の地方自治体の場合に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な地方自治体の財政に関し専門的に考察できることを目標とします。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション
2回	地方自治体の役割
3回	地方分権と公共財
4回	予算制度と経費の膨張
5回	地方税
6回	地方税
7回	補助金
8回	国と地方との財政関係
9回	国と地方との財政関係
10回	地方債
11回	地方財政健全化
12回	地方公営企業と第3セクター
13回	公会計
14回	地方財政改革
15回	まとめ、最終テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。

植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年

『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）

『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

#### 成績評価方法

最終テスト：70%

講義内容についての感想（複数回）：30%

#### その他

・経済政策、財政学、などの科目も履修することをお勧めします。

講義科目 : 経営学	単位数 : 4
マークシート略 : [経営学]	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

第1回	第16回
第2回	第17回
第3回	第18回
第4回	第19回
第5回	第20回
第6回	第21回
第7回	第22回
第8回	第23回
第9回	第24回
第10回	第25回
第11回	第26回
第12回	第27回
第13回	第28回
第14回	第29回
第15回	第30回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目 : マーケティング論	単位数 : 4
マークシート略 : [マーケテ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 鷲尾 和紀	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義は最初にマーケティングの原理を学びます。さらに経済における活動に生産と消費がある中で、マーケティング戦略論の主な課題である企業への顧客または市場・環境への対応、競合への対応、手法について学びます。マーケティングは「売れる仕組み」を考えます。またその目標は顧客の価値創造と維持であります。マーケティング戦略の本質を様々な事例を通して理解していくことが授業の到達目標であります。

#### 授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	ブランド戦略①
2回	マーケティング戦略の意義	17回	ブランド戦略②
3回	マーケティング・コンセプト	18回	価格戦略①
4回	需要・顧客価値、競争とマーケティング	19回	価格戦略②
5回	マーケティング・マネジメントの基本	20回	チャネル戦略①
6回	市場機会の分析と発見	21回	チャネル戦略②
7回	SWOT分析(外部)	22回	コミュニケーション戦略①
8回	SWOT分析(内部)	23回	コミュニケーション戦略②
9回	市場細分化	24回	製品ライフサイクル
10回	標的市場の設定	25回	サービスマーケティング①
11回	ターゲティング	26回	サービスマーケティング②
12回	ポジショニング①	27回	商学について
13回	ポジショニング②	28回	流通論
14回	製品戦略①	29回	デジタル・マーケティング
15回	製品戦略②	30回	学習内容のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀・鷲尾紀吉(2017)『マーケティング戦略論』発行：創成社

#### 成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。授業態度等。

#### その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

日常生活においてマーケティングはあらゆるところに存在しています。日々の生活からマーケティングをイメージできるようになれば楽しくなります。

講義科目 : 人的資源管理論	単位数 : 2
マーケット略 : [人的資源]	学習形態 : 選択科目
担当 :	

後日揭示

講義の内容・方法および到達目標

授業計画

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

教材・テキスト・参考文献等

成績評価方法

その他

講義科目	: 会計学	単位数	: 4
マークシート略	: [会計学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 田中 里美		

#### 講義の内容・方法および到達目標

会計学は、企業や官庁や家計など一定の経済主体を単位として行う会計行為に関する学問のことを指します。企業がおこなう会計行為を企業会計と言い、本講義では企業会計を中心に学習します。会計学の細分化された専門科目を学ぶためには会計に関する一定の基礎知識が必要となります。本講義では、日本の会計基準の形成過程を踏まえ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書について学習します。

#### 授業計画

第1回 ガイダンス	第16回 確認テスト②と総括
第2回 会計学の基礎知識	第17回 会計コンバージェンスと新会社法①
第3回 日本の会計規制のはじまり①	第18回 会計コンバージェンスと新会社法②
第4回 日本の会計規制のはじまり②	第19回 中小会社会計①
第5回 企業会計原則の設定	第20回 中小会社会計②
第6回 トライアングル体制	第21回 確認テスト③と総括
第7回 会計制度の国際化①	第22回 確認テストまとめ
第8回 会計制度の国際化②	第23回 貸借対照表の見方
第9回 確認テスト①と総括	第24回 損益計算書の見方
第10回 引当金制度①	第25回 キャッシュ・フロー計算書の見方
第11回 引当金制度②	第26回 決算書分析指導①
第12回 減価償却制度①	第27回 決算書分析指導②
第13回 減価償却制度②	第28回 決算書分析指導③
第14回 資本金会計①	第29回 試験と総括
第15回 資本金会計②	第30回 全体のまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 田中里美『会計制度と法人税制』唯学書房。
- 矢島雅巳『決算書はここだけ読もう』弘文堂。

#### 成績評価方法

- 期末試験（40%）、確認テスト3回分（60%、1回あたり20%）を基準に評価をします。

#### その他

- 授業の進捗度に応じて授業計画が変更される場合があります。
- 電卓をご用意下さい。

講義科目 : 簿記原理	単位数 : 4
マークシート略 : [簿記原理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤田 美咲	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

すべての経済活動の背後には必ず会計がついてまわります。  
 企業の活動内容を数字から理解し、成果を測り、状況を把握し、そして将来をよむ。これらのことを可能にするための基礎として簿記の基本を学びます。  
 最終的に日本商工会議所簿記検定3級レベルの実力を修得することを目標とします。

#### 授業計画

テキストに沿って、おおよそ以下のように進めていく予定ですが、受講生の状況によって修正をしていきます。

第1回	ガイダンス、簿記の基礎	第16回	決算
第2回	簿記の基礎、日常の手続き	第17回	決算整理
第3回	日常の手続き、商品売買	第18回	決算整理
第4回	商品売買	第19回	決算整理
第5回	商品売買	第20回	決算整理
第6回	商品売買	第21回	決算整理
第7回	商品売買、現金・預金	第22回	決算整理
第8回	小口現金、クレジット売掛金等	第23回	決算整理後残高試算表
第9回	手形等	第24回	精算表
第10回	電子記録債権	第25回	帳簿の締め切り
第11回	その他の取引	第26回	損益計算書と貸借対照表
第12回	その他の取引	第27回	株式の発行、剰余金
第13回	その他の取引	第28回	税金、証憑と伝票
第14回	訂正仕訳	第29回	確認テストと 補足・質問時間
第15回	試算表	第30回	

#### 教材・テキスト・参考文献等

(テキスト) 「合格テキスト 日商簿記3級」 TAC出版

#### 成績評価方法

出席は毎回とります。  
 全授業回数の3分の1を超えて欠席すると、評価の対象外とします。  
 試験80%に平常点(出席状況、講義中の態度)20%を加味して判定します。

#### 実務経験

公認会計士としての監査法人勤務経験があり、現在は税理士として税理士法人に勤務。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。

#### その他

講義には電卓をご用意ください。

講義科目 : 工業簿記及び原価計算	単位数 : 2
マークシート略 : [工業簿記]	学習形態 : 選択科目
担当 : 藤田 美咲	実務経験 : 有

#### 講義の内容・方法および到達目標

この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品原価の計算について理解することを目的とします。

最終的に日本商工会議所簿記検定2級の工業簿記レベルの実力を修得することを目標とします。

#### 授業計画

テキストに沿って、おおよそ以下のように進めていく予定ですが、受講生の状況によって修正をしていきます。

- 第1回 ガイダンス、工業簿記の基礎、工業簿記の勘定連絡
- 第2回 材料費
- 第3回 材料費、労務費
- 第4回 労務費、経費
- 第5回 個別原価計算
- 第6回 個別原価計算
- 第7回 個別原価計算
- 第8回 総合原価計算
- 第9回 総合原価計算
- 第10回 総合原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 標準原価計算
- 第13回 直接原価計算、(財務諸表の表示)
- 第14回 CVP分析、(本社工場会計)
- 第15回 確認テスト

#### 教材・テキスト・参考文献等

(テキスト) 「合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記」 TAC出版

#### 成績評価方法

出席は毎回とります。

全授業回数の3分の1を超えて欠席すると、評価の対象外とします。

試験80%に平常点(出席状況、講義中の態度)20%を加味して判定します。

#### 実務経験

公認会計士としての監査法人勤務経験があり、現在は税理士として税理士法人に勤務。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。

#### その他

講義には電卓をご用意ください。

本講義は簿記3級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。

講義科目 : 上級簿記	単位数 : 2
マーケット略 : [上級簿記]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 里美	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義では、日商簿記検定2級の商業簿記の内容を学習します。

簿記は、会計学の基礎となる科目です。簿記により企業の経済活動を数量的に捉えることによって、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることができます。簿記の知識と技術は、社会的にも大きな役割を果たしており、経済社会で活躍する人たちにとっては、身につけておきたい知識と技術であると言えます。企業の経済活動を数値化することで、企業の管理ができ、投資家に対して情報を公開することができ、さらに税金の計算にも役立てられています。また、簿記を学ぶことで、物事を合理的に考察し、正確かつ迅速に処理する能力や思考力を身につけることができます。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 銀行勘定調整表
- 第3回 固定資産
- 第4回 有価証券、引当金
- 第5回 株式発行、無形固定資産、繰延資産
- 第6回 社債
- 第7回 税金、剰余金の配当と処分
- 第8回 精算表
- 第9回 帳簿組織、財務諸表
- 第10回 問題演習
- 第11回 本支店会計①
- 第12回 本支店会計②
- 第13回 伝票会計
- 第14回 確認テストと総括
- 第15回 総括とまとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 使用テキストは、最初の授業で指定します。

#### 成績評価方法

- 問題集の回答（50％）と確認テスト（50％）を基準に評価をします。

#### その他

- 日商簿記検定3級取得者、簿記原理で日商簿記検定3級程度の学習を終えた者を対象とします。
- 「工業簿記及び原価計算」とセットで受講することで日商簿記検定2級の学習をすることができます。
- 電卓をご用意下さい。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:鎌塚 有貴	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

「日本国憲法」の講義中では詳細に扱うことのできなかつた事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。

#### 授業計画

各回担当者による報告形式とする。報告担当でない者は、質疑応答の際に参加できるように予習してくることが望ましい。

#### 教材・テキスト・参考文献等

憲法判例百選第6版Ⅰ、Ⅱ（有斐閣、2013年）

その他、教材について授業中に指示することがある。

#### 成績評価方法

授業への出席、報告等を総合的に判断する。

#### その他

「日本国憲法」を履修済みであること。

講義科目 :社会科学演習	単位数 :4
マークシート略 :〔社会演習〕	学習形態 :必修科目
担当 :川上 生馬	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

本講義では受講生の関心のある民法にまつわる問題について、各自が報告を行い、その内容について他の受講生が質問を行うという形で講義を進めることとする。民法にまつわる問題は契約のトラブルや婚姻・離婚・相続など多岐にわたる。そこで、1年次までに学習してきた民法に関する知識を生かし、社会問題を民法の視点から考察することで、法的思考能力のブラッシュアップを目指したい。

#### 授業計画

初回講義時に、受講生の希望する報告内容の大枠を決定する作業を行い、第2回講義より報告を開始する。報告担当者はレジュメを作成し、報告者でない受講生は事前配布資料および当日の配布レジュメを基に質問を行うこととする。講義の成果として卒業論文を執筆することを予定している。

#### 教材・テキスト・参考文献等

初回講義時に各受講生が報告する際に必要となる資料の検索等を指導の下に行うことを予定している。

#### 成績評価方法

報告内容、質問内容、卒業論文の内容によって評価する（平常点100%）。

#### その他

民法Ⅰを履修していることが望ましい。

民法Ⅱ・Ⅲ、家族法を履修していれば検討の幅が広がるため、これらの科目の既履修または演習との同時履修が望ましい。

講義科目 :社会科学演習	単位数 :4
マークシート略 :〔社会演習〕	学習形態 :必修科目
担当 :川崎 航史郎	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

労働や社会保障の実態を理解し、問題の把握・分析・課題解決を法的な見地から行います。指定した教材に掲載されているテーマを中心に、各参加者が自由に選択した課題を取り上げ、報告を行う方法をとります。報告者以外は、報告への事前学習と積極的な意見提供を行うことが求められます。報告者はテーマに関連する資料を収集し、綿密な報告の準備が必要です。資料収集の方法や報告の仕方については演習の最初に指示します。報告内容は大きなテーマ設定はしますが、内容は関心があることに取り組んでもらって大丈夫です。最終的に日本の労働法社会保障法の基本的課題に対して、自らの見解をもてることを目指します。

#### 授業計画

- 第1回 ゼミガイダンス
- 第2回 資料収集の方法・情報処理室・図書館利用方法
- 第3回 各自によるゼミ報告
- |
- 第15回 同上

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義「労働法」での教科書。他は、後に指定します。

#### 成績評価方法

平常点（報告の準備、ゼミ中の討論への参加75%）、卒業論文（25%）

#### その他

夏休みの9月中旬に、他大学との合同ゼミに参加する予定です（学生・講師の都合により不参加も有り）

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:楠本 孝	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

テーマ：刑事法の諸問題

概要：

本ゼミは、各ゼミ員が自ら自分のテーマを決め、そのテーマについて1年間研究した成果をゼミ論にまとめることを目標とする。

#### 授業計画

本ゼミは、各ゼミ員が自分のテーマについて報告し、他のゼミ員と討論するという方法で行う。

#### 教材・テキスト・参考文献等

演習時において指示する。

#### 成績評価方法

ゼミ論の内容とゼミへの貢献度を総合的に評価する。

#### その他

ゼミは、教員が教えるのではなく、ゼミ生の報告によって運営されるので、積極的に取り組む意思がない者は遠慮してほしい。

講義科目 :社会科学演習	単位数 :4
マークシート略 :〔社会演習〕	学習形態 :必修科目
担当 :立石 芳夫	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

本演習では、政治学もしくは行政学の観点から、国や地方の政治行政の諸問題を扱っていく。

運営方法としては、文献購読を通じて、旺盛な討論を試みたいと思う。文献など具体的な内容については、学生と相談して決めていきたい。また、受講生の状況次第では、より基礎的な学習方法を実施することもありうる。

本演習は、とくに政治や行政の問題に関心のある学生にすすめたい。ゼミに対しては、通常の講義とは異なり、教員ではなく学生が中心的な役割を担うことを念頭に置いてもらいたい。毎回のゼミでは、受講生が自分の意見や考えを人前で論理的にコミュニケーションできる能力の養成にも努めたい。

#### 授業計画

専門文献の講読を進める。どの程度進めるかについては、受講生と相談のうえ決めていく。

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストなどについては、受講生と相談のうえ決めていく。

#### 成績評価方法

出席状況（50%）、事前準備・授業態度（50%）を総合して評価する。また、ほぼ毎回の授業でペーパーの提出を義務づけ、これについても事前準備・授業態度の部分で成績評価の対象とする。

#### その他

本演習とあわせて、行政学、地方政治論、政治学原論を受講しておくこと。

講義科目 : 社会科学演習	単位数 : 4
マークシート略 : [社会演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 藤枝 律子	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

現代の行政とは、国民・住民といかなる関係にあるのか、判例研究を中心として多様な観点から検討を試みる。学期の前半はディベート、後半は各個人の興味関心のあるテーマでの報告の形式で行う。議論・検討を重ねた後、卒業論文の形にまとめ上げることを目標とする。

#### 授業計画

主なテーマとして

- ① 環境問題
- ② まちづくり
- ③ 社会保障
- ④ 教育問題
- ⑤ 公共事業
- ⑥ 情報公開・個人情報保護

等

#### 教材・テキスト・参考文献等

参考資料等は、各回のテーマに合わせて提示をする。

#### 成績評価方法

出席、ゼミでの報告や議論など平常点及び卒論を総合して評価する。

#### その他

検討・報告テーマ等は、参加者と協議して決める。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:石原 洋介	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 教員の指導の下、指定したテキストを用い、現代社会に関する学びを深める。とりわけ本演習では、国際経済、国際金融を中心に学ぶ予定である。
- ・ 各章のまとめと報告を学生が担当し、学生同士で意見交換や議論をすることで、テーマに関する理解を深めるとともにプレゼンテーションやディスカッションの能力を涵養する。
- ・ 夏季休暇に1部石原ゼミが行う課外研修に、参加を希望するゼミ生には参加を認める。課外研修では、東京にある日本銀行、東京証券取引所等を見学することでその役割と機能の理解を深める。なお、参加希望者には、課外研修参加費の多くが自己負担（一部ゼミ補助あり）になることをあらかじめ承知しておいていただきたい。
- ・ ゼミ生の皆さんには、まとまった分量の文章を論理的に書く能力を養うことを目的として卒業論文を執筆してもらう予定だが、夏季に開催される小論文コンクールへの作品提出をもって代替することを認める。
- ・ 株式会社や協同組合の仕組みを体験しつつ、企画力・行動力・協働する力を身につけるために、サマフェスまたは大学祭にゼミ単位で参加する。

#### 授業計画

- ・ 毎週テキストの一定分量を担当学生が報告し、討論する。
- ・ 1部石原ゼミが夏季に実施する課外研修（日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所を見学）に参加可能。
- ・ サマフェスまたは三重短祭に参加する。
- ・ 卒業論文または小論文コンクール提出論文を作成する。

#### 教材・テキスト・参考文献等

指定したテキストを最初のゼミまでに購入しておくこと。  
2冊目以降のテキストはゼミ生と相談して決定する。

#### 成績評価方法

出席およびゼミでの報告、討論への参加意欲、卒業論文または小論文コンクール提出作品の出来などを総合的に評価する。

講義科目 :社会科学演習	単位数 :4
マークシート略 :〔社会演習〕	学習形態 :必修科目
担当 :大畑 智史	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

地方経済の活性化は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、その論点に関する議論などの取組を通じ、地方経済活性化と地方財政との関連性について、履修者が専門的な見解を持てることを目標とします。

#### 授業計画

##### [前期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告、議論

##### [後期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告・最終報告、議論

\* 地方経済活性化の取組みの現場に訪問（自由参加）することを考えています。この詳細は、受講生と相談の上、決めます。

2016年度：志摩市方面（9月）

2017年度：伊賀市方面（9月）

2018年度：亀山市方面（6月）、四日市市方面（12月）

#### 教材・テキスト・参考文献等

文献講読では、まず、下記の著書を読みます。

木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社、2016年

これ以降は、受講生と相談の上、決めていきます。

その他、本演習関連の文献については、適宜紹介します。

#### 成績評価方法

出席、卒業研究関係報告、これらを総合的に評価します。

#### その他

- ・ できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。
- ・ 各種行事への積極的な参加を考えています。

講義科目	: 社会科学演習	単位数	: 4
マークシート略	: [社会演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 奥山 晋也	実務経験	: 有
		* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

- ・ 内容 … 少人数制の「税法」ゼミナール
- ・ 方法 … 発表者の選んだテーマに沿った共同作業・討論形式
- ・ 目標 … ①税の知識を深め、人前で話すことに慣れる  
②各自の研究テーマで卒業論文を完成させる  
③卒業後も活かせる人の繋がりを大事にする

#### 授業計画

##### 【前期】

卒業論文（レポート）作成に関する基礎を習得するため、参考文献を読む。並行して研究テーマ選びをする。その過程として、近況報告や最近の関心事をゼミ内で話し合う。毎回の意見交換の中から、アイデア・価値の多様性を学ぶ。

- ・ 4月 レポート作成の基本を学ぶ
- ・ 5月 文献・資料の集め方、図書館活用法を学ぶ
- ・ 6月 研究テーマ選び、仮題目の決定、執筆計画を立てる
- ・ 7月 サマーフェスティバル出店、学外演習に参加する
- ※ 夏休みゼミ合宿を行う（希望者）

##### 【後期】

各自の研究テーマに沿った内容の発表・報告を行い、自らの考えを更に深め又は整理する。担当教員・ゼミ生全員による自由なディスカッションを行う。そこでは新たな気づきを共有し、互いの執筆作業を援助・協力する。

- ・ 10月～12月 各自研究テーマで執筆、中間報告を行う
- ・ 11月 大学祭出店、学外演習に参加する
- ・ 1月 卒業論文（レポート）の完成・最終発表

#### 教材・テキスト・参考文献等

初回演習時に案内する  
（レポート作成関連1冊、税法入門1冊予定）

#### 成績評価方法

出席報告内容及び参加姿勢50%、卒業レポート50%で評価する

#### 実務経験

東海税理士会津支部に所属する税理士。クライアントには医療機関が多い。地域の経営者達から得た生の声をゼミ運営やレポート作成指導に活かします。

#### その他

- ・ 卒業論文（レポート）は、3,000字以上を評価の対象とする
- ・ 新聞記事や関連文献を読み、考え、議論を楽しむ姿勢が求められる
- ・ ゼミ各種行事や学外演習に前向きに参加できる行動力があるとよい
- ・ 担当教員との連絡は、演習時以外、原則email等のWebツールとなる

講義科目 : 社会科学演習	単位数 : 4
マークシート略 : [社会演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 田添 篤史	* 第2学年で履修

#### 講義の内容・方法および到達目標

テーマ：経済学の視点から日本経済を考える

概要：現代の日本経済には様々な課題があります。日本経済について様々な面から取り扱ったテキストを輪読します。

そのうえでゼミ生が自ら選んだテーマに基づいて調査、報告を行い、卒業論文を完成させることを目標とします。

#### 授業計画

最初に1冊目のテキストの輪読を行い、各自が興味あるテーマを設定します。

それをもとにして、各自で調査、研究報告を行います。

2冊目以降のテキストやテーマについては、学生と相談のうえ決定します。

#### 教材・テキスト・参考文献等

初回までに次のテキストを購入しておくこと

岡田知弘・岩佐和幸編『入門 現代日本の経済政策』法律文化社

#### 成績評価方法

出席、ゼミでの発言、卒業論文の内容などにより総合的に判断します。

講義科目	:社会科学演習	単位数	:4
マークシート略	:〔社会演習〕	学習形態	:必修科目
担当	:田中 里美	* 第2学年で履修	

### 講義の内容・方法および到達目標

現在、日本が直面する社会問題についてみんなで考え、ディスカッションを行い、卒業論文を完成させる。

### 授業計画

#### 【前期】

●テキストの通読を通して基礎能力を養う。各自卒業論文のテーマを決める。テーマ設定は会計学の枠にとらわれず自由に設定してよい。自己のテーマに沿った関心事項を報告する。

#### 【後期】

- 卒業論文の作成に取り組み、完成させる。
- 卒業論文の作成過程で報告もおこなう。
- 卒業論文は、3,000字以上とする（図表を含む）。

### 教材・テキスト・参考文献等

- テキストとして使用する文献は、受講者のレベルに合わせて決定する。

### 成績評価方法

演習であるため、以下の2点を中心に総合的に評価する。

- 報告の内容
- 卒業論文の提出とその評価

### その他

- 演習であるためゼミ活動に積極的に参加できる者が望ましい。

講義科目	: 社会科学演習	単位数	: 4
マークシート略	: [社会演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 鷲尾 和紀	* 第2学年で履修	

#### 講義の内容・方法および到達目標

本演習は、主としてサービス業を中心としたマーケティング戦略を学修します。今日サービス業が多数ある中、マーケティングにおいてサービスとは何か考える必要があります。そのためにはマーケティング・ミックスの実践と生活者の価値観の多様化に対応した市場細分化によるターゲット分析をより深く理解することが求められます。さらにライフプランに合わせた金融商品や保険サービス等についてサービスマーケティング独自のマーケティング戦略について学修します。

また近年におけるデジタル化によって人々は利便性を求めるようになった。デジタルツールで取引できるサービスについては、時間に対する価値観、期待の持ち方、また新たな環境の中での自己認識のあり方が変わってきている。

これらを自分の立場から考え、マーケティングを通じて自分のあり方を考えられることが本演習の狙いです。今までの知識と経験を合わせて、創造性や思考力を育みます。学生生活を通じて自己分析を行い将来に向けて成長を求めている人を望みます。

#### 授業計画

演習では、広く具体的な事例を素材として、マーケティングが果たしている役割や機能を検証していく予定です。また、その作業を通じて最終的に受講者が自らテーマを設定して、最終的に卒業論文を作成してもらいます。その過程で、卒業論文に関する報告を輪番制で行ってもらおう予定です。

#### 教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀 著 『パーソナルファイナンシャル・サービス・マーケティング』  
発行：創成社, 2016年

#### 成績評価方法

演習時の報告、発言、参加などを総合的に考慮し、さらに卒業論文をもって判断します。無断欠席は厳禁。

#### その他

マーケティング論、日本経済論を受講していることが望ましい。  
希望者には、編入試験対策として面接の練習や過去問の分析を行います。